



平成25年度版 飛騨・美濃じまん白書

平成24年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について

岐阜県観光交流推進局

目次

P

第1章 岐阜県の観光の現状

1	本県の観光の現状	
	～平成24年岐阜県観光入込客統計調査結果～	
(1)	観光入込客数	1
(2)	観光客の内訳	2
(3)	外国人宿泊客数	3
(4)	行祭事・イベント入込客数	3
(5)	各圏域の動向	4
(6)	観光消費額	6
(7)	経済波及効果額（推計）	6

第2章 「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組（6つのプロジェクト別）

1	岐阜の宝もの認定プロジェクト	7
2	飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト	15
3	飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト	23
4	県産品ブランド力向上プロジェクト	27
5	まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト	38
6	「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト	49

参考資料

・	平成22年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況	54
・	みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例	55

1

岐阜県の観光の現状

1 本県の観光の現状 ～平成24年岐阜県観光入込客統計調査～

(1) 観光入込客数

平成24年の観光入込客数（実人数）は、前年と比較して、日帰り客数が減少（前年比▲0.5%）した一方で、宿泊客数は増加（前年比10.7%）し、全体では前年比0.8%の3,619万3千人となった。

また、行祭事・イベント入込客数は、延べ1,112万4千人（26.6%）となり前年より増加した。

区 分		平成24年	参考：平成23年
観光入込客数（実人数）	全 体	3,619万3千人（0.8%）	3,589万3千人
	日 帰 り	3,155万0千人（▲0.5%）	3,169万7千人
	宿 泊	464万4千人（10.7%）	419万6千人
行祭事・イベント入込客数（延べ人数）		1,112万4千人（26.6%）	878万8千人

※平成23年の調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入し、調査手法を変更している。
 ※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

出展)「平成24年岐阜県観光入込客統計調査」

※)実人数：同じ観光客が県内の複数の観光地点を訪れたり、2泊以上宿泊したとしても、実際の観光客数は一人であることから、延べ観光客数からパラメータを用いて実人数を推計する。

観光地点毎の入込客数の県内トップは、1位が「土岐プレミアム・アウトレット」（土岐市）で550万5千人、2位が「河川環境楽園（アクア・トトぎふ含む）」（各務原市）で417万4千人、3位が「高山地域」（高山市）で250万6千人となった。[表1]

[表1] 観光地点別入込客数順位（ベスト10）

順位	観光地点名	観光客数 (万人)	参考：23年	
			順位	観光客数 (万人)
1	土岐プレミアム・アウトレット	550.5	1	531.5
2	河川環境楽園 (アクア・トトぎふ含む)	417.4	2	410.8
3	高山地域	250.6	3	224.7
4	千代保稲荷神社	194.4	4	197.8
5	世界イベント村ぎふ	164.4	7	137.8
6	伊奈波神社	154.7	5	152.0
7	千本松原・国営木曾三川公園	130.1	6	150.7
8	下呂温泉	118.8	8	117.1
9	白川郷合掌造り集落	117.7	9	116.7
10	岐阜公園	85.0	10	82.1

出展)「平成24年岐阜県観光入込客統計調査」

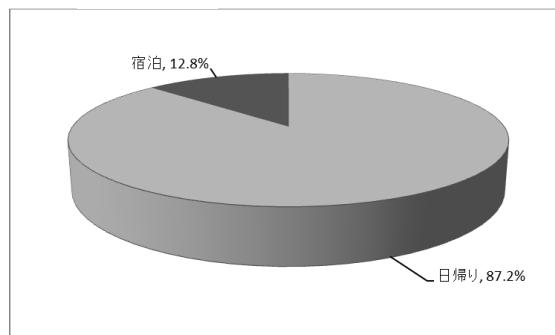
(2) 観光客の内訳

①日帰り・宿泊別観光客数

平成24年の観光入込客数は3,619万3千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,155万人、宿泊客は464万4千人であり、依然として日帰り客が多いものの、宿泊客の占める割合は前年より1.1ポイント増加した。

[図2]

[図2]



圏域別に見ると、中濃圏域が日帰り客の割合が最も高く（構成比96.3%）、西濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客47.4%、宿泊客52.6%と宿泊客の割合が日帰り客の割合より高く、飛騨圏域の宿泊客279万1千人は県全体の宿泊客の60.1%を占めた。

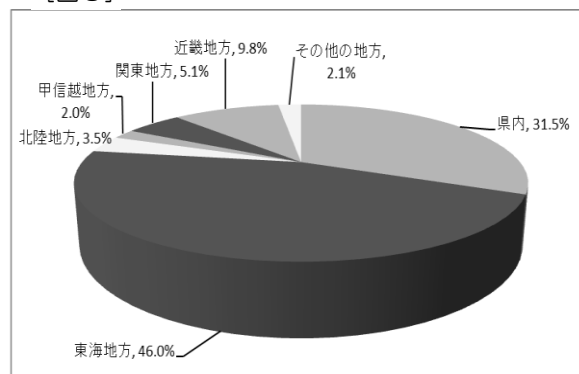
②居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は1,141万7千人（構成比31.5%）、県外客は2,477万7千人（構成比68.5%）と、県外客が多くを占めた。

特に飛騨圏域では県外客の割合が79.2%と高い。[図3]

県全体では、県外客のうち67.3%が東海地方からの観光客であり、以下近畿、関東地方と続いている。前年に比べ、県内や東海、近畿地方からの観光客の割合が増えた一方、関東、甲信越、北陸地方からの観光客の割合が減少した。

[図3]

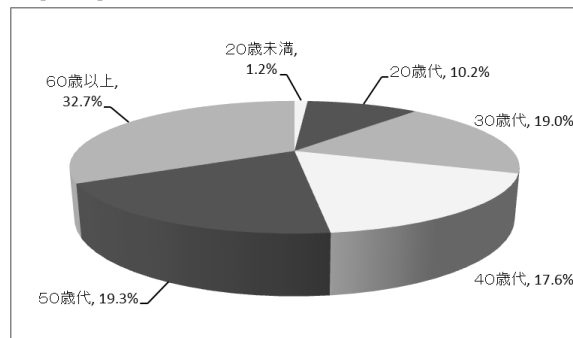


③男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性が2,034万8千人（構成比56.2%）、女性は1,584万5千人（構成比43.8%）と前年に引き続き、男性が多かった。

年齢別では、60歳以上が32.7%と最も多く、以下50歳代、30歳代と続いている。[図4]

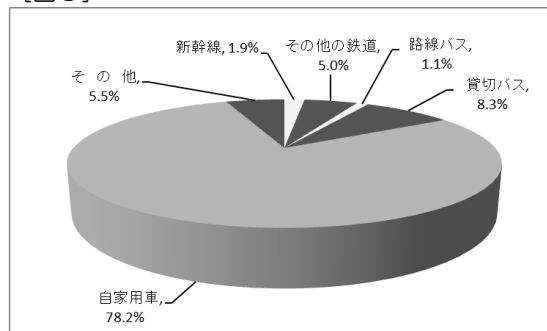
[図4]



④利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の78.2%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。[図5]

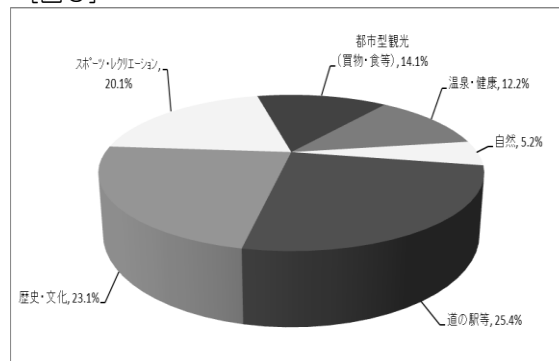
[図5]



⑤観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光（買物・食等）」、「温泉・健康」、「自然」と続く。[図6]

[図6]



(3) 外国人宿泊客数

外国人の宿泊客数（実人数）は20万1千人となった。前年は3月に発生した東日本大震災の影響により外国人観光客数が大きく減少したが、平成24年は大幅に改善し、前年比105.1%に増加した。

(4) 行祭事・イベント入込客数

平成24年の行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は1,112万4千人（前年比26.6%）であった。県内トップは、昨年は開催中止となった「長良川花火大会」（岐阜市）で70万人、2位が「道三まつり」（岐阜市）で41万人、3位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で40万人となった。

また、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会では各地が会場となり、多くの人を訪れ、岐阜市では35万6千人となった。[表2]

[表2] 行祭事・イベント入込客数順位（ベスト10）

順位	観光地点名	観光客数 (万人)	参考：23年	
			順位	観光客数 (万人)
1	長良川花火大会	70.0	-	-
2	道三まつり	41.0	-	-
3	ぎふ信長まつり	40.0	1	40.0
4	ぎふ清流国体・ぎふ清流大会 (岐阜市)	35.6	-	-
5	高山祭	33.3	3	32.5
6	土岐美濃焼まつり	29.0	4	32.0
7	刃物まつり	26.0	6	26.0
8	元氣ハツラツ市	25.5	6	26.0
8	郡上おどり	25.5	5	26.6
10	日本ライン夏まつり納涼花火 大会	23.0	9	25.0

出展)「平成24年岐阜県観光入込客統計調査」

(5) 各圏域の動向

[表3] <圏域別観光入込客数、行祭事・イベント入込客数> (単位：万人)

	日帰り客数	宿泊客数	観光入込客数(実人数、合計)	行祭事・イベント入込客数(延べ人数)
岐阜圏域	613.1	82.6	695.7 (▲9.7%)	353.0 (70.7%)
西濃圏域	649.2	32.6	681.8 (▲10.0%)	259.0 (10.7%)
中濃圏域	790.4	30.6	821.0 (5.6%)	182.6 (25.8%)
東濃圏域	850.5	39.4	890.0 (11.1%)	223.0 (0.9%)
飛騨圏域	251.7	279.1	530.8 (9.9%)	94.9 (31.9%)
合計	3,155.0	464.4	3,619.3 (0.8%)	1,112.4 (26.6%)

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

①岐阜圏域

- ・観光客数は695万7千人で、前年と比べて74万7千人の減少(対前年比▲9.7%)となった。このうち、日帰り客数は613万1千人となり、前年に比べ75万5千人減少(対前年比▲11.0%)した。一方で、宿泊客数は82万6千人と8千人増加(対前年比0.9%)した。
- ・観光地点別についてみると、8月にオープンした「長良川うかいミュージアム」で純増した一方、前年に国宝薬師寺展が開催されたことによる増加の反動により「岐阜市歴史博物館」は減少した。
- ・行祭事・イベント別入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「長良川花火大会」や「道三まつり」、「手力の火祭」などの主要な行祭事・イベントが今年は開催され、純増となった一方で、降雨やブルーインパルスの飛行がないなどの影響により「航空祭」が減少した。

②西濃圏域

- ・観光客数は681万8千人で、前年と比べて75万8千人の減少(対前年比▲10.0%)となった。このうち、日帰り客数は649万2千人となり、前年に比べ78万6千人減少(対前年比▲10.8%)した。一方で、宿泊客数は32万6千人と2万9千人増加(対前年比9.6%)した。
- ・観光地点別についてみると、4月にオープンした「奥の細道むすびの地記念館」が純増した一方で、降雨などの天候不順により、「千本松原・国営木曾三川公園」などで減少した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「大垣花火大会」や、「谷汲さくらまつり」、「池田サクラまつり」などが今年は開催され、純増となった一方で、降雨などの天候不順により、「チューリップ祭」が減少した。

③中濃圏域

- ・観光入込客数は821万人で、前年と比べて43万5千人の増加(対前年比5.6%)

となった。このうち、日帰り客数は790万4千人となり、前年に比べ44万7千人増加（対前年比6.0%）した。一方で、宿泊客数は30万6千人と1万2千人減少（対前年比▲3.9%）した。

- ・観光地点別についてみると、バラが見頃を迎えた時期の天候に恵まれた「花フェスタ記念公園」が増加し、9月に道の駅に指定された「美濃白川クオーレの里」や、1月に温泉がオープンした道の駅「美濃白川」が増加した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「関まつり」や「美濃まつり・さくらまつり」、「ツアーオブジャパン美濃ステージ」、「めいほう高原音楽祭」などの行祭事・イベントが今年は開催され、純増となった。

④東濃圏域

- ・観光入込客数は890万人で、前年と比べて89万2千人の増加（対前年比11.1%）となった。このうち、日帰り客数は850万5千人となり、前年に比べ89万8千人増加（対前年比11.8%）した。一方で、宿泊客数は39万4千人と6千人減少（対前年比▲1.4%）した。
- ・観光地点別についてみると、前年に引き続き観光地点毎の入込客数県内トップとなった「土岐プレミアム・アウトレット」がPR効果により増加し、6月にオープンした「瑞浪市農産物等直売所『きなあた瑞浪』」が純増した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、第2回の開催となった「美濃焼祭（多治見市）」や期間中天候に恵まれた「曾木公園もじみライトアップ」などで増加した。

⑤飛騨圏域

- ・観光入込客数は530万8千人で、前年と比べて47万9千人の増加（対前年比9.9%）となった。このうち、日帰り客数は251万7千人となり、前年に比べ4万9千人増加（対前年比2.0%）した。また、宿泊客数は279万1千人と43万人増加（対前年比18.2%）した。
- ・観光地点別についてみると、東日本大震災の影響による観光客数の減少に対応した誘客キャンペーンやイベントの実施などにより「高山地域」や「飛騨古川古い町並み」などで増加した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「古川祭」が今年は開催され、純増となった。

(6) 観光消費額

平成24年の観光消費額の総額は2,460億29百万円(対前年比3.7%)で、うち日帰り客分は1,410億70百万円(対前年比13.7%)、宿泊客分は1,049億59百万円(対前年比▲7.3%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は4,471円(対前年比14.2%)、宿泊客は22,603円(対前年比▲16.2%)であった。

宿泊客分は、宿泊客数が増加したものの、宿泊客一人当たりの平均消費額が減少したことで減少した一方で、日帰り客分は、日帰り客数が減少したものの、日帰り客一人当たりの平均消費額が増加したことで増加し、全体の観光消費額は前年と比較し増加した。

(7) 経済波及効果(推計)

平成24年の生産誘発額は3,753億9百万円、就業誘発効果は36,219人となった。

2

「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組 (6つのプロジェクト別)

1 岐阜の宝もの認定プロジェクト

■岐阜の宝もの認定事業の推進

飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとの飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとのじまを、全国に通用する観光資源として磨きをかけ、「岐阜の宝もの」として情報発信する岐阜の宝もの認定事業に取り組んでいる。

飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとの飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとの観光資源の掘り起こしを県民参加で進めるため、一人ひとりが感じる岐阜県のじまを過去2回にわたって募集し、延べ1,811件の応募をいただいた。寄せられた多くの“じまん”は、県内5地域での議論や、まちづくりやマーケティングなどの専門家による審査を経て、今後の岐阜県観光の振興につながる地域資源として、これまでに2回の選定を行い、44件の「じまんの原石」が掘り起こされた。

さらにその中から、今後の魅力向上に向けた取組によっては全国に通用する観光資源になることが期待できる「岐阜の宝もの」として、平成20年度に「小坂の滝めぐり」を、平成21年度に「乗鞍山麓五色ヶ原の森」「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を認定、それに次ぐ「明日の宝もの」として、平成20年度に「中山道」「川原町界限」「郡上鮎」「八百津のおやつ」を、平成21年度に「美濃白川四季彩街道」「天生県立自然公園と三湿原回廊」を認定し、魅力向上の取組を支援したほか、観光キャンペーンなどでPRしたことで多くの人が訪れるようになっている。

平成22年度には、過去2回の募集で寄せられた多くのじまを、飛騨・美濃じまん地域会議において再検証し、その後の取組により魅力が向上した11件と、新たに地域会議によって掘りおこされた8件の計19件の新たな「じまんの原石候補」が推薦され、「岐阜の宝もの」認定委員会の審査を経て、12件の新たな「じまんの原石」が選定された。

平成23年度には、これまでに選ばれた「じまんの原石」「明日の宝もの」の中から、「岐阜の宝もの候補」として地域会議から推薦のあった12件について、選定後の魅力向上（ブラッシュアップ）の取組状況などを現地調査し、その結果を基に「岐阜の宝もの」認定委員会の審査を経て、10月15日（土）、じゅうろくプラザホール（岐阜市）で開催した「岐阜旅STYLE2011 第5回飛騨・美濃じまんミーティング」において、「天生県立自然公園と三湿原回廊」を「岐阜の宝もの」、「岩村城跡と岩村城下町」と「中山道と伏見宿、

太田宿、御嶽宿、鵜沼宿」を「明日の宝もの」に認定した。

そして24年度には、県内3箇所で開催した「飛騨・美濃じまんミーティング地域会議」で、「岐阜の宝もの」4件を除く、これまでに選定した52件の「じまんの原石」のブラッシュアップの取組状況などを審査し、地域の観光関係者等との意見交換、「岐阜の宝もの」認定委員会の審査を経て、2月9日（土）、じゅうろくプラザホール（岐阜市）で開催した「第6回飛騨・美濃じまんミーティング」において、「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」を発表した。

新たな「岐阜の宝もの」には、中津川市から関ヶ原町にかけての中山道と宿場町「中山道ぎふ17宿」を、「明日の宝もの」には、「中津川市の栗きんとん巡り」、「笠置山クライミングエリア」、「種蔵「棚田と板倉の風景」と山里文化」、「美濃竹鼻まつり・ふじまつり」、「大垣の水景物語（大垣の湧水・地下水、水まんじゅう、住吉燈台・船町港・赤坂港、木柙、名水わさび、水屋群などの風景と輪中文化）」、「岐阜ローカル鉄道の旅（養老鉄道、長良川鉄道、明知鉄道、樽見鉄道）」を認定した。



第6回飛騨・美濃じまんミーティング



岐阜の宝もの「中山道ぎふ17宿」

〔平成24年度「岐阜の宝もの」、「明日の宝もの」認定の流れ〕

- ①「飛騨・美濃じまんミーティング地域会議」を開催し、「岐阜の宝もの」認定専門委員によるブラッシュアップの取組報告の審査を実施（10～12月）
- ②「岐阜の宝もの」認定専門委員を開催し、「飛騨・美濃じまんミーティング地域会議」の審査結果をまとめ、「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」認定案を作成（12月）
- ③「岐阜の宝もの」認定委員会を開催し、「岐阜の宝もの」1件、「明日の宝もの」6件の認定案を決定（1月）
- ④「第6回飛騨・美濃じまんミーティング」において、「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」を認定・発表（2月）

【参考：岐阜の宝もの】

〔平成25年2月認定：1件〕

中山道ぎふ17宿

[平成23年10月認定：1件]

天生県立自然公園と三湿原回廊

[平成22年2月認定：2件]

乗鞍山麓五色ヶ原の森、東濃の地歌舞伎と芝居小屋

[平成20年8月認定：1件]

小坂の滝めぐり

【参考：明日の宝もの】

[平成25年2月認定：6件]

中津川市の栗きんとん巡り、笠置山クライミングエリア、種蔵「棚田と板倉の風景」と山里文化、美濃竹鼻まつり・ふじまつり、大垣の水景物語（大垣の湧水・地下水、水まんじゅう、住吉燈台・船町港・赤坂港、木杓、名水わさび、水屋群などの風景と輪中文化）、岐阜ローカル鉄道の旅（養老鉄道、長良川鉄道、明知鉄道、樽見鉄道）

[平成23年10月認定：2件]

岩村城跡と岩村城下町、中山道と太田宿、伏見宿、御嶽宿、鶉沼宿

[平成22年2月認定：2件]

美濃白川四季彩街道、天生県立自然公園と三湿原回廊

[平成20年8月認定：4件]

川原町界限、郡上鮎、八百津のおやつ、中山道（馬籠宿、落合宿、中津川宿、大井宿、大湫宿、細久手宿、赤坂宿）

【参考：じまんの原石】

[平成23年2月選定：12件]

岐阜城パノラマ夜景（岐阜市）、名水わさび（大垣市）、中山道・美濃路の追分「垂井宿」（垂井町）、池田山（池田町）、長良川鉄道（郡上市、美濃市、関市、富加町、美濃加茂市）、飛騨美濃せせらぎ街道（高山市、郡上市）、こころのテーマパーク「虎渓山地区」（多治見市）、清流付知峡で自然浴（中津川市）、桜堂薬師（瑞浪市）、笠置山クライミングエリア（恵那市）、串原の布ぞうり（恵那市）、明知鉄道（恵那市、中津川市）

[平成21年8月選定：17件]

養老鉄道（大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町）、刃物ミュージアム回廊（関市）、笠原のタイル（多治見市）、美濃焼窯場めぐり（多治見市、土岐市）、羽島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館（羽島市）、中山道4宿（岐阜市、各務原市、瑞穂市）、中山道と太田宿、御嶽宿、伏見宿（美濃加茂市、御嵩町、可児市、坂祝町）、東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋（瑞穂市、恵那市、中津川市）、東山寺町と文化財めぐり（高山市）、乗鞍山麓五色ヶ原の森（高山市）、天生県立自然公園（飛騨市）、まちの名物つるむらさきうどん（関市）、山岡細寒天及び恵那山麓寒天豚（恵那市）、大垣の湧水・地下水（大垣市）、住吉燈台・船町港・赤坂港（大垣市）、水まんじゅう（大垣市）、水屋群などの風景と輪中文化（大垣市）

[平成20年3月選定：27件]

川原町界限（岐阜市）、美濃竹鼻まつり・ふじまつり（羽島市）、各務原キムチで都市おこし（各務原市）、伊自良連柿・富有柿・おふくろ柿（山県市、瑞穂市、本巣市）、木曾川凧揚げ大会と木曾川エリア（笠松町、岐南町）、ベーめん（海津市）、谷汲門前町（揖斐川町）、中山道赤坂宿・木柁（大垣市）、「おちよぼさん」門前町（海津市）、徳山ダム（揖斐川町）、薬草（揖斐川町）、郡上鮎（郡上市）、食品サンプル（郡上市）、神と仏の里いとしろ（郡上市）、八百津のおやつ（八百津町）、四季彩街道（白川町）、美濃焼と日本酒の融合「美濃陶醉」（多治見市）、土岐市の窯元めぐり（土岐市）、中津川の栗きんとん（中津川市）、岩村城跡と岩村城下町・温故知新 大正100年への誘い（恵那市）、馬籠宿・中山道（中津川市、恵那市、瑞浪市）、ふるさと体験飛騨高山（高山市）、棚田と板倉の風景と山里文化（飛騨市）、三湿原回廊（飛騨市）、ケイチャン（下呂市）、小坂の滝めぐり（下呂市）、龍の瞳（下呂市）

■地域の主体的なブラッシュアップの取組への財政支援

「飛騨・美濃じまん運動」の推進による「観光王国飛騨・美濃」の実現を図るため、地域が主体的に行う「じまんの原石等」のブラッシュアップ事業及び岐阜県を代表する観光資源の強化・再生事業のうち、必要と認める経費についての支援を行った。

○平成24年度補助金交付団体 16団体

■岐阜の宝もの等ブラッシュアップ観光交流推進事業

○岐阜の宝もの連携モデル構築事業

[実施期間] 平成24年4月2日～平成25年3月31日

「小坂の滝めぐり」「天生県立自然公園と三湿原回廊」「中山道ぎふ17宿」など、岐阜の宝もの等のブラッシュアップの担い手同士の連携や、観光資源間の連携を図り、多様化する旅行ニーズに対応できる重層的で魅力的な観光圏づくりを目的とした取組

を行った。

- ①体験プログラムやモニターツアーの実施、メディア等への情報発信を常時行う拠点施設の設置及び運営
- ②メディア編集者を招聘し、取材記事の雑誌やWEBへの掲載
- ③旅行会社との商談会の実施や展示会等への参加による情報発信
- ④旅行商品の企画・販売などのスキルを学ぶ研修会の実施
- ⑤沿道各地の景観や職、歴史、文化を楽しむ街道歩き・まち歩きプログラム「中山道ぎふ17宿歩き旅 はじめの一步ウォーク」の開催
- ⑥ホームページやテレビ、新聞、情報誌、各種展示会・イベントを活用した情報発信



はじめの一步ウォーク パンフレット



ハイライトウォーク 出発式



はじめの一步ウォーク「ハイライトウォーク」の様子



大湫宿での「ごへだ」作り

○天生県立自然公園と三湿原回廊ブラッシュアップ事業

[実施期間] 平成24年4月2日～平成25年3月31日

「天生県立自然公園と三湿原回廊」の豊かな自然環境の保全、回復運動を行いながら、体験プログラムに関する専門的知識・経験を有する質の高いガイドを育成し、それらを活用しながら四季を通じて散策できる魅力的なフィールドをつくり、地域が自立した滞在型周遊観光地の構築を目指した取組を行った。

- ①飛騨市・白川村の森「公認ガイド制度」を構築するための協議会の設立に向けた取組の実施
- ②質の高いガイドを育成するための養成講座、スキルアップ講座の開催
- ③「天生の森サポーター倶楽部」の運営

- ④三湿原の外来植物等の撤去、「池ヶ原湿原」の植生調査及びヨシ伐採
- ⑤日帰り体験プログラムや宿泊モニターツアーの実施
- ⑥パンフレットやガイドブックの制作
- ⑦ホームページやテレビ、新聞、情報誌、各種展示会・イベントを活用した情報発信
- ⑧新たな観光消費につながる特産品の開発



天生ブナ原生林



池ヶ原湿原・ミズバショウの咲く水面

○小坂の滝ウェルネス・ツーリズム推進事業

〔実施期間〕 平成24年4月2日～平成25年3月31日

「小坂の滝めぐり」をはじめとする小坂町の魅力を活かした体験プログラムの実施やガイドの育成などにより、「ぎふウェルネス・ツーリズム」の象徴的な観光エリアの中核として育成する取組を行った。

- ①体験プログラムの実施や紹介、ガイドの育成、メディア等への情報発信を常時行う拠点施設の設置及び運営
- ②自立的な拠点施設の運営を行うための財務分析やマーケティングの手法などを活用した事業計画の策定
- ③体験プログラムやオフシーズンの体験メニュー、宿泊観光プログラムの実施
- ④パンフレットや動画番組の制作
- ⑤ホームページやテレビ、新聞、情報誌、各種展示会・イベントを活用した情報発信



小坂の滝（あかがねとよ）



観光プログラム～初夏の覚明トレイル～



観光プログラム～秋の覚明トレイル～



観光プログラム～冬の滝めぐり～

○「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を活用した滞在型観光地づくり事業

[実施期間] 平成24年4月1日～平成25年3月31日

岐阜の宝ものに認定された「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」が抱える課題や、さらなる魅力向上を図りながら、東濃圏域の観光資源相互の連携強化による地域情報の発信や、観光ルートの開発などによる滞在型観光地づくりに向けた取組を行った。

①情報発信の拠点施設の設置・運営

- ・岐阜自慢ジカブキプロジェクト事務局（中津川市にぎわいプラザ6階）

②体験プログラム及びモニターツアーの企画・実施

- ・平成24年8月4日～12日 地歌舞伎ワンダーランド常盤座（夏）
- ・平成24年10月6日～14日 地歌舞伎ワンダーランド常盤座（秋）
- ・平成24年8月5日 東濃魅力再発見ツアー
- ・平成24年11月10日～11日 地歌舞伎役者体験ツアー など

③地歌舞伎の情報発信

- ・専用ホームページによる情報発信
- ・地歌舞伎と周辺観光地等を紹介するガイドブックの制作
「岐阜・東濃再発見・地歌舞伎 2012 秋」
- ・インターネット動画サイト「Nippon Archives」を活用した動画配信
「東濃の地歌舞伎 明治座」

④イベント参加を通じた情報発信の実施

- ・平成24年9月9日 歌舞伎町ルネッサンス「岐阜県地歌舞伎座初御目見得」
- ・平成24年10月20日 「2012 演劇 CAMP in 中津川」
- ・平成24年11月17日～18日 「さぬき歌舞伎まつり」 など



地歌舞伎ワンダーランド常盤座



岐阜県地歌舞伎座初御目見得（新宿歌舞伎町）

■飛騨・美濃観光大使を活用した情報発信

季節に応じた観光スポット、イベント、グルメ、お土産情報など岐阜県の旬の魅力を発信する季刊観光情報誌「岐阜っぽ」において、飛騨・美濃観光大使から、ふるさと岐阜での思い出や、ふるさと岐阜への想いを紹介しつつ、大使お勧めの観光スポットやグルメをするなど、岐阜の多彩な魅力をPRした。



「岐阜っぽ」におけるPR (MEGARYU)

■中山道統一デザイン案内標識設置の促進

「明日の宝もの」に認定された、「中山道」をPRし、わかりやすく案内するため、市町村と連携しながら、中山道統一デザイン案内標識の設置を平成24年度末までに県・市町村合わせて114基設置した。

- ・統一デザイン案内標識を平成24年度には垂井町で1基設置。

2 飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト

■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会を活用した岐阜の魅力発信

全国から100万人を超える方々が来県された「ぎふ清流国体」「ぎふ清流大会」を本県観光の魅力伝える千載一遇のチャンスと捉え、国体・大会期間中の観光PRキャンペーンをはじめ様々な誘客キャンペーンを展開した。

○国体情報と観光情報を満載した情報誌「岐阜っぽ。」の発行

国体情報、旬の観光情報を盛り込んだ季節観光情報誌「岐阜っぽ。」を作成し、国体会場及び県内外で広く配布。関係者はもとより、全国からの来県者に向けて岐阜県の魅力や国体・大会の関係情報をきめ細やかに発信した。

夏号 vol.3 (H24.5 発行)

- ・内 容：夏の観光情報、高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン、国体ワークショップ情報、競技情報など
- ・配布先：ぎふ清流ハーフマラソンの関係者や、県外の体育協会、スポーツ店のほか、県内市町村の観光協会、道の駅、コンビニエンスストア等で配付

国体号 vol.4 (H24.8.31 発行)

- ・内 容：国体会場周辺の観光情報、NEXCO中日本との連携キャンペーン情報、クーポン・プレゼント情報など
- ・配布先：国体関係者や高速道路のPA・SA、スポーツ店での配付のほか、観光情報誌への挟み込みによるPRを実施。また、愛知県・岐阜県内の自動車ディーラー(426店舗)、県内の観光協会、道の駅、コンビニエンスストア等で配付

(参考) 国体会場等での観光パンフレットの配布計画

<配布資料>

- ・岐阜っぽ。(観光情報誌) 130,000部
- ・観光マップ 80,000部
- ・旅スタイル(オールガイド) 60,000部

<配布方法>

- ※日体協・各県の体協に「岐阜っぽ。」を事前送付(9月上旬)
- ※その他は(原則として担当課から)国体推進局に一括資料を渡し、担当課・市町村資料とともにセット(袋詰め)配布

- ・選手・監督・役員 (袋詰め) 宿舎配布・競技会場で手渡し
- ・国体開会式 (9/29) 一般入場者に (袋詰め) 配布
- ・国体閉会式 (10/9) 一般入場者に (袋詰め) 配布
- ・案内所 (会場、駅) 期間中案内所に設置し、一般入場者に手渡し
- ・セーリング会場 期間中案内所に設置し、一般入場者に手渡し
- ・大会開会式 (10/13) 一般入場者に (袋詰め) 配布
- ・大会閉会式 (10/15) 一般入場者に (袋詰め) 配布



岐阜っぽ 国体号 vol.4

○NEXCO中日本と連携したキャンペーン

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催にあわせ、NEXCO中日本と連携した誘客キャンペーンを実施した。(平成24年7月12日～10月31日)

- ・速旅 清流の国ぎふドライブプランの発売
- ・クーポン提示による観光施設優待特典の実施
- ・クーポン付きキャンペーンハンドブックの配布
- ・キャンペーン特設サイトの開設

○国体期間中における観光PRキャンペーンの展開

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催にあわせ、県内外で様々な誘客キャンペーンを実施した。

- ・JR東海と連携した観光PR
- ・「ぎふを味わおう」キャンペーンの開催
- ・観光キャラバン隊におけるPR
- ・道の駅コンシェルジュによる誘客

○道の駅等と連携した国体おもてなし事業

[事業概要]

平成24年9月28日から10月15日にかけて開催された「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」を契機として、県民(消費者)、県産品の作り手、道の駅等の販売店が

一体となって、岐阜県の特産品をプロモーションするキャンペーンを実施した。

道の駅王国（道の駅数全国2位）と言われる県内53箇所の道の駅や、JR岐阜駅、名鉄岐阜駅、JR岐阜羽島駅の鉄道駅、高速道路のSA・PAなどにおいて、飛騨・美濃すぐれものをはじめとする県産品の販売促進キャンペーンを実施するとともに、県産品を販売する道の駅等への誘客を図るための広報・宣伝活動を行った。

[成果]

・道の駅等への「飛騨・美濃すぐれもの」の販売促進

事前に商品サンプルの送付や商談会（東濃、中濃にて実施）などを実施。

新規取引の促進を行った結果、キャンペーン期間中に31店舗93商品の新規取引が実現。また、キャンペーン終了後も73商品が継続販売。

・メイン会場（JR岐阜駅北口デッキ特設会場）及び名鉄岐阜駅会場での販売等
キャンペーンのメイン会場として、JR岐阜駅の北口に広がる「杜の架け橋」に特設会場を設け、県産品や国体グッズ、新規開発した限定土産品の販売と観光PRを実施。併せて、名鉄岐阜駅イクト前においても販売・観光PRを実施。

集客実績：JR岐阜駅会場3,830名、名鉄岐阜駅会場780名

売上額：2,117,215円

（うち飛騨・美濃すぐれもの売上額459,623円）

■大手旅行インターネットサイトと連携した誘客キャンペーン

大手旅行インターネットサイトの「楽天トラベル」及び「じゃらん.net」と連携し、季節に応じた魅力的な旅行商品やキャンペーンの特集ページの開設、さらにはインターネットサイトの会員に向けたメールマガジンの配信といった誘客キャンペーンを展開。

○じゃらん.net

特集ページ 平成24年5月17日～平成25年3月22日

メールマガジン 10回 計1,880.7万通

トップページバナー 6週間

○楽天トラベル

特集ページ 平成24年5月21日～平成25年3月18日

（一部掲載期間外あり）

メールマガジン 7回 計2,486.8万通

トップページバナー 期間中すべて

■エコツーリズムの促進

県内の豊かな自然を保全しつつ、自然観光資源として活用するため、エコツーリズム団体等の活動を支援するとともに、地域で中核的役割を担うエコツーリズム地域コーディネ

ーターを育成するなど、エコツーリズムの促進に取り組んだ。

【エコツーリズム団体等の活動支援】

○活動助成 4団体

- ・(株)美濃白川クオーレの里
- ・NPO 法人 飛騨小坂200滝
- ・飛騨高山エコチェーンネットワーク
- ・NPO 法人 メタセコイヤの森の仲間たち

○エコツーリズム連携会議

- ・開催日 12月1・2日
- ・場 所 岐阜県立森林文化アカデミー
- ・内 容 パネルディスカッション、分科会等
- ・参加者 約100名

【エコツーリズム地域コーディネーターの育成】 4名



■グリーン・ツーリズムの推進

豊かな自然や伝統文化とその恵みに育まれた農林漁業といった地域資源を生かし、岐阜県ならではのグリーン・ツーリズムを推進するため、関係市町村及び関係団体と連携して「受入体制の充実」と「情報発信力の強化」に取り組んだ。

○受入体制の充実

- ・食のワークショップの開催

料理専門家を交え、失われつつある郷土料理や伝統食（ここでは「絶滅危惧食」と呼ぶ。）を掘り起こし、調理・加工法の伝承とグリーン・ツーリズムの新たなメニュー化に取り組んだ。（3月／2回）

- ・第2回ぎふグリーン・ツーリズムネットワーク東白川大会の開催

県内のグリーン・ツーリズム実践者が一堂に集い、地域課題の共有とその解決策について検討を行うとともに相互の連携と交流を深めた。（11月／参加者106名）。

- ・グリーン・ツーリズムインストラクター等体験指導者の育成

緊急雇用創出事業を活用し、グリーン・ツーリズムの体験指導者となる人材を育成（8団体／14名）。

- ・子ども農山漁村交流プロジェクトの推進
小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動の受入体制づくりを推進（5団体）

○情報発信の強化

- ・メールマガジン「ぎふの田舎へいこう！」通信の充実
企業や都市住民に対して岐阜県の田舎体験情報を提供するメールマガジンを毎月1回発行（約1,400部）。
- ・ぎふの田舎へいこう！キャンペーン2012の実施
登録施設との協働により、施設利用者を対象に抽選で県産品などをプレゼントする誘客キャンペーンを実施。ぎふ清流国体・ぎふ清流大会に合わせ期間を1カ月延長（7～10月）。
- ・ぎふの田舎の魅力発掘・セールス事業の実施
緊急雇用創出事業を活用し、県内のグリーン・ツーリズム体験プログラムを網羅した誘客効果の高いガイドブックを作成するとともに、都市部から教育旅行の誘致を図るための学校や旅行事業者に対するアンケート調査やセールス活動を実施。



<ぎふの田舎へいこう！キャンペーン2012>



<ぎふグリーン・ツーリズムガイドブック『GIFU-DO』>

■第2回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンの開催

シドニー五輪マラソン金メダリストの高橋尚子さんが大会長を務める「第2回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」を開催し、国内外の有名選手や47都道府県からの一般ランナー約1万人、ボランティア約2千5百人が参加したほか、約12万人の観衆がメイン会場・沿道に繰り出した。大会では、本県の観光・食・モノを一体的にPRするイベントなどを併せて開催し、岐阜の魅力を全国に発信した。

○開催日：平成24年5月20日（日）

○参加者：9,520人（ハーフマラソン：8,530人、3km：990人）

○内 容：

- ・岐阜県のB級グルメや県産品販売などの「楽市・楽座」を設置するとともに、高橋尚子さんのランニングクリニック、サンプルザ中野くんやhitomiさんのライブなど、多彩なステージイベントを実施。

・地元のまちづくり団体や商業団体などで「岐阜おもてなし応援隊」を結成し、沿道応援やランナーへのおもてなし、関連イベントを主体的に実施。



スタートの様様



コースを埋め尽くすランナー



大勢の人で賑わう楽市・楽座



ランナーへのおもてなし

■「岐阜フィルムコミッション事業」の推進

岐阜県の新たな地域資源の活用や観光交流につながるよう、映画やテレビをはじめとする映像作品を支援する「フィルムコミッション事業」を推進。平成24年度には20作品の誘致・支援を行った。

<支援した主な作品>

○映画『負けて、勝つ～戦後を創った男・吉田茂～』（平成24年9月放送）

出 演：渡辺謙、谷原章介、永井大 他

撮影地：岐阜県岐阜総合庁舎

撮影日：平成24年6月



『負けて、勝つ～戦後を創った男・吉田茂～』撮影風景

○映画『藁の楯』（平成25年4月26日公開）

監督：三池崇史

出演：大沢たかお、松嶋菜々子、本田博太郎 他

撮影地：岐阜県庁舎、岐阜県西濃総合庁舎 他

撮影日：平成24年8～9月

○映画『四十九日のレシピ』（平成25年秋公開）

監督：タナダユキ

出演：永作博美、石橋蓮司、岡田将生、二階堂ふみ、原田泰造 他

撮影地：瑞浪市、恵那市、土岐市 他

撮影日：平成24年11月

○NHK-B Sプレミアムドラマ『父の花、咲く春～岐阜・長良川幫間物語～』

(平成25年4月放送)

出演：桐谷健太、連佛美沙子 他

撮影地：岐阜市、美濃市

撮影日：平成25年2月

<事業・ロケ地PR活動>

○岐阜フィルムコミッション事業PR

・岐阜フィルムコミッション展開催（平成25年3月16日・17日、岐阜総合庁舎）



・映画『あなたへ』ロケ地マップ共同作成（富山県、兵庫県朝来市、山口県下関市、福岡県北九州市、長崎県、岐阜県）

■朝市・直売所の魅力発信の強化

魅力ある農産物直売所づくり、安全・安心な農産物の生産拡大等に向け、直売所に関わる経営者、店舗運営責任者、農産物生産者等の資質向上を図るための対象別研修会を開催するなど、生産から直売所運営までを幅広く支援することで地産地消及び観光交流の拠点である朝市・直売所の活性化を図った。

○店づくり研修会

- ・ 上手な商品PRのための手書きPOPづくり研修（平成24年7月11日）
- ・ 直売所経営改善研修（平成24年9月11日）
- ・ 農産物品揃えの充実研修（平成24年12月10日）
- ・ 農産加工品新商品開発研修Ⅰ（平成25年2月3日）
- ・ 農産加工品新商品開発研修Ⅱ（平成25年2月4日）

○朝市・直売所情報の収集発信

- ・ 岐阜県食と農を考える県民会議の会員向けメールマガジン（PC版、モバイル版）で朝市・直売所のイベント情報等を発信。

○担い手確保対策等地域朝市連合活動の促進

- ・ 高齢化に伴い減少を続ける直売所生産者を確保するため、地域朝市連合に参加する直売所において定年帰農者や農村女性の参入につなげる生産者との交流会、栽培講習会・ほ場見学会等の取組みを支援した。
- ・ 岐阜県朝市連合加入の朝市・直売所関係者等を対象に、「活力と魅力ある直売所づくり研修会」を開催。（平成25年2月14日）

3 飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト

■海外誘客戦略推進事業、国際観光対策事業の推進

海外から岐阜県を訪れる訪日旅行を促進するため、アセアン諸国（シンガポール、マレーシア、タイ等）や東アジア諸国（中国、台湾等）を重要市場と位置付け、国の「ビジット・ジャパン」（V J）事業や近隣県・関係機関との連携のもと、各種誘客事業を展開した。

○海外メディア・旅行エージェント等の招へい、視察旅行へのアテンド

件数：47件

国：シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、韓国、中国、香港、台湾、フランス、アメリカ

○岐阜県観光セミナー等の開催

シンガポール（1月）

中国（北京）（3月）

○国際観光展への出展、海外での関係機関へのセールス活動

シンガポール（8月、2月）

マレーシア（9月、3月）

タイ（8月、12月、2月）

インドネシア（9月）

中国（5月、7月）

台湾（10月、1月）

韓国（5月、9月）

フランス（4月）

■FIT（個人旅行）化の流れを踏まえた誘客プロモーション

これまで、欧米の訪日外国人については、主に個人旅行者が多かったものの、近年、シンガポールを始めとしたアジアにおいても、リピーターの増加などにより、より自由な行程を求めて、これまでの団体旅行から個人旅行へと旅行形態が変化しつつある。こうした流れを踏まえ、個人旅行者をターゲットとした様々な誘客プロモーションを展開した。

○SNSなどを活用した海外への情報発信

SNSを利用する県内在住の留学生や、海外の人気ブロガーなどを対象に、県内観光地を訪問するツアーを実施し、外国人から見た本県の魅力などについて、参加者が自らのフェイスブック等を通じて様々な情報を発信し、PRを展開した。

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）：社会的ネットワークを構築できるサービス（フェイスブックなど）

○外国人個人旅行者に対するおもてなし観光PR

海外からの個人旅行者をメインターゲットに、県内の観光・宿泊・交通情報などの実用的な観光情報のみならず、おもてなしの視点から、ホテル・土産物店など、県内観光事業者と連携した各種特典を掲載した「外国人観光客向けの県内旅行ハンドブック」を新たに作成し、国内外において配付・PRを展開した。

■観光・食・モノを一体化した、顔の見えるプロモーションの展開

平成24年度は、シンガポールにおいて「岐阜県の観光資源、食、モノづくり」の背景に「文化、芸術、清流の国」があることを訴求するとともに、「伝統的なモノづくりとハイテクの融合」について紹介する「Quality Gifu ～本物は岐阜県にある～」イベントを開催し、岐阜県ブランドの更なるイメージ向上と定着を図った。

【シンガポール】

○期 間：平成25年1月31日（木）～2月28日（木）

○内 容：・県産品フェア開催（「a t o m i」）

- ・日本画家「神戸智行」氏 作品展開催
- ・美濃和紙描画ワークショップ開催
- ・神戸智行氏アーティストトーク開催
- ・情報科学芸術大学院大学（IAMAS）プレゼンテーション開催
- ・旅行博（「NATAS Travel 2013」）出展



日本画家「神戸智行」氏 作品展

■インターネットを活用した海外販路開拓

県内中小企業の販路拡大を図るため、楽天(株)と締結（平成21年11月9日）した包括連携協定に基づき、インターネットを活用した海外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。また、海外販売に取り組む店舗の裾野を広げるため、初心者向け、自社店舗向けの勉強会等も開催した。

【海外販売サポートデスクの設置】

○緊急雇用創出基金（人材育成）を活用し、無料での翻訳支援サービスや無料相談などのサポートを実施

【海外通販セミナー】

○「海外販売セミナー」の開催（共催：郵便事業㈱）

- ・開催日：1月22日
- ・会場：じゅうろくプラザ
- ・参加者：51名県内中小企業の販路拡大を図るため、楽天(株)と締結（平成21年11月9日）した包括連携協定に基づき、インターネットを活用した海外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。また、海外販売に取り組む店舗の裾野を拡げるため、初心者向け、自社店舗向けの勉強会等も開催した。

■海外のマーケティング拠点づくり・海外販路のパートナーづくり支援

海外の小売店等との連携によってマーケティング拠点を構築しテスト販売を行うなどして、地場産品の海外展開を支援した。

○平成24年度の取組

- ・シンガポール

現地のセレクトショップのオーナーを招聘して商材を発掘し、県産品フェアを2回開催。

- ・上海

現地に販路を有する県内商社と連携し、現地のセレクトショップで県産品フェアを2回開催。

- ・パリ

現地に販路を有する県内商社と連携し、現地のセレクトショップで県産品フェアを2回開催。

- ・アメリカ

現地で開催された日本酒PRイベントへの参加や、和食レストランでの日本酒フェアを実施。



<シンガポールでの木工ワークショップ>



<アメリカでの日本酒PRイベント参加>

■アセアン地域への農産物等の輸出促進

県産農産物の販売促進とブランド化を推進するため、岐阜県農林水産物輸出促進協議会

(※1) と連携し、アセアン地域をターゲットとして、飛騨牛や富有柿を中心に、レセプション等における情報発信力の高い要人へのPR、百貨店等での販売フェアの開催、バイヤーやレストラン関係者との商談等を行い、新たな販路開拓に取り組んできた。

富有柿は、香港、シンガポール、タイに加えマレーシアの百貨店で販売されている他、飛騨牛は、香港、シンガポールに加え、新たにタイへの輸出を開始した。

また、新たな輸出品目の開拓として、タイヘイチゴ（美濃娘）の輸出を本格的に行い、販売先の百貨店から高い評価を得ている。

○平成24年度の輸出実績

柿：輸出量 34 t

販売店舗：香港4店舗、シンガポール1店舗、タイ4店舗

飛騨牛：輸出量 1,956 kg

飛騨牛海外推奨店（※2）：香港7店舗、シンガポール3店舗

推奨店以外の取扱店：香港1店舗、シンガポール2店舗、タイ1店舗

いちご：輸出量 378 kg

販売店舗：タイ2店舗

(※1) 岐阜県農林水産物輸出促進協議会とは、県農産物等の輸出促進を目的に平成16年、県、農業団体、食品産業団体、ジェトロ岐阜等8団体により設置された。

(※2) 飛騨牛海外推奨店とは、飛騨牛の銘柄化を進めている飛騨牛銘柄推進協議会が認定する海外で飛騨牛を取り扱う店舗のこと。

4 県産品ブランド力向上プロジェクト

■「飛騨・美濃すぐれもの」認定、販売促進

産地の特性を生かし、安全性、品質等の基準を満たした優良な県産品を「飛騨・美濃すぐれもの」として認定し、県産品の看板商品としてPRするとともに、百貨店催事や各種イベントへの出展など、消費者と直結した販売戦略を展開した

○「飛騨・美濃すぐれもの」の募集、認定

平成22年度認定商品：5点（食品4点、非食品1点）

平成23年度認定商品：9点（食品6点、非食品3点）

平成24年度認定商品：40点（食品45点、非食品5）

○販売、PR支援

- ・首都圏の百貨店、スーパーマーケットでの販売プロモーション実施
- ・「ぎふ清流国体・清流大会」期間中、道の駅等を活用した商品PR
- ・県内ショッピングモールにおける販売プロモーション実施
- ・岐阜県ポートフォリオ（岐阜県ブランド集）でのPR など

■「県産品愛用推進宣言の店」の指定

県産品愛用による地産地消を推進するため、県内産の食材を利用した料理を提供している飲食店や県内の商品を多数揃えた販売店を「県産品愛用推進宣言の店」に指定し、ホームページ等で広く県民に紹介した。

平成24年度は新たに46店舗を指定し、現在307店舗（飲食の部：208店舗、食品製造販売の部：25店舗、販売の部：74店舗）が「県産品愛用推進宣言の店」として県産品の利用拡大を行っている。

■県産品の料理指定店・販売指定店を拡大促進

飛騨牛、奥美濃古地鶏等の消費拡大のため、料理指定店・販売指定店を拡大。

区分		17年3月 (計画初年度)	25年3月	増加数
飛騨牛	料理指定店 (H2～)	125店舗	184店舗	59店舗
	販売指定店 (H元～)	212店舗	219店舗	7店舗
奥美濃古地鶏	料理指定店 (H6～)	47店舗	40店舗	-7店舗
	販売指定店 (H6～)	55店舗	44店舗	-11店舗
飛騨けんとん	料理指定店 (H10～)	13店舗	25店舗	12店舗
美濃けんとん	販売指定店 (H10～)	53店舗	42店舗	-11店舗
飛騨清流河ふぐ	取扱料理店 (H12～)	10店舗	9店舗	-1店舗

■国内外に発信できる岐阜県ブランドの一翼を担う商品の開発支援

県内モノづくり企業の意欲的な商品開発プロジェクトを対象として、プロダクトデザイナーとのマッチングによるデザイン開発支援を行うことで、顧客（消費者）の視点に立った付加価値の高いモノづくり、品質・デザイン性・機能性に優れた国内外に発信できる岐阜県ブランド商品の開発支援を行った。

○開発支援を行ったプロジェクト件数：20件

■都内のセレクトショップと連携した県産品の販売強化

県内モノづくり企業の商品開発力向上、消費者直結型のビジネスモデル構築支援及び首都圏における販路開拓支援を目的に、都内でセレクトショップを経営しているメイド・イン・ジャパン・プロジェクト(株)と締結（平成22年2月24日）した連携協力に関する協定に基づき、各種事業を実施した。

○県産品のテストマーケティング（2回）

セレクトショップにおいて県産品のテスト販売を実施し、首都圏の高感度な消費者の厳しい目にさらす機会を提供することで、県内モノづくり企業の商品開発力の向上を図った。

（販売実績）34社・81商品

○マーケティングイベント（2回）

テストマーケティング期間中に参加県内モノづくり企業に対し、モノづくりへの関心が高い首都圏の消費者の方と直接交流し意見交換を行うマーケティングイベントを開催し、顧客（消費者）視点のモノづくりを推進するヒントを得る機会、商品価値伝達スキル向上の場を提供した。

（参加企業）18社

○県産品常設販売コーナーの設置（通年）

セレクトショップに「岐阜県商品コーナー」を設置し、岐阜県産品のブランド発信を図った。

○モノづくり道場の開催（5回）

県内モノづくり企業の経営者を対象に、事業計画の作成手法を学ぶ実践的講座「モノづくり道場」を開催した。

（参加者）9名

■インターネットを活用した販路開拓の推進

県内中小企業の販路拡大を図るため、インターネットを活用した国内外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組の支援と、店舗同士のつながりを強化する施策を実施した。

【Web販路拡大セミナー・少人数制講座の開催】

「ぎふネットショップマスターズ倶楽部」会員向け中心のセミナーを開催

○平成24年度第1回全体例会

・開催日：平成24年8月30日

・場 所：大垣市情報工房

- ・参加者：106名
- ・内容：楽天市場をはじめオンラインショッピングで数多くの賞を受賞している店舗経営者による講演会の開催
- 平成24年度第2回全体例会
 - ・開催日：平成25年2月13日
 - ・場所：ふれあい福寿会館
 - ・参加者：124名
 - ・内容：有名経営コンサルタントによる基調講演と全国のカリスマネットショップ店長のパネルディスカッションの開催
- bidders（現DeNAショッピング）新規出店セミナー
 - ・開催日及び場所：平成24年6月11日 メモリアルセンター
平成24年6月12日 多治見市産業文化センター
平成24年11月13日 メモリアルセンター
- 通販セミナー
 - ・開催日：平成24年7月19日
 - ・場所：ふれあい福寿会館
 - ・参加者：67名
 - ・内容：（公財）日本通信販売協会と連携し、多様化する通販事業の現状を実例などを元に分かりやすく解説した講座
- ECスパルタ塾「超絶！！ネットショップ改造塾」
 - ・開催日：平成24年7月より毎月1回開催
 - ・場所：ソフトピアジャパンワークショップ24他
 - ・内容：売り上げアップを目指し、そのノウハウと経営改善の手法を半年間かけて学ぶ少人数制講座
- 楽天大学学長による「EC頭の磨き方」講座
 - ・開催日：平成25年1月24日から3月22日まで全5回開催
 - ・場所：ソフトピアジャパンワークショップ24他
 - ・内容：「顧客心理をつかむ」をテーマに、ネットショップにおける運営の考え方を身につけるワークショップ型研修

【Web物産展等の開催】

- 「飛騨牛フェア」の開催
 - ・開催期間：平成24年10月1日～11月1日
 - ・参加店舗：36店舗
 - ・参加店舗総売上：約7,602万円

■名古屋圏のインテリアショップと連携した商品価値伝達力の向上支援

県内モノづくり企業の商品価値伝達力向上及び名古屋圏における販路開拓支援を目的に、名古屋圏の高品質なインテリアショップにおいて、テストマーケティングを実施した。

○県産品のテストマーケティング（1回）

名古屋圏5店舗において県産品のテスト販売を実施。実施に伴い、参加企業が各ショッ

プバイヤーに対し、商品のアピールポイント等をプレゼンテーションする機会や各ショップの売り場担当者とコミュニケーションを図ったり、消費者（顧客）に商品を直接アピールする機会を設けるなどの、商品価値伝達力の向上に向けた取り組みを行った。

（販売実績）40社・115商品

■飛騨牛のブランド力向上対策の推進

情報発信力の高い首都圏において、レストランでの飛騨牛フェアや百貨店、大手量販店での飛騨牛販売イベントを開催するとともに、都内レストラン308店舗を直接訪問し、飛騨牛のPR実施した。

○飛騨牛ブランド力向上に向けたPR活動

- ・「丸の内ぎふweek」（飛騨牛および岐阜柿を中心とした岐阜の「食」と「ものづくり」・「観光誘客」を一体的にPRするキャンペーン）の開催

（10/22～28、新丸の内ビルディング）

- ・首都圏の高級スーパー等での飛騨牛フェアの開催

紀ノ国屋：7/5～10、都内及び神奈川県計7店舗で実施

9/12～18、都内及び神奈川県計7店舗で実施

H25/1/23～29、観光課「飛騨美濃ウィーク」とともに都内及び神奈川県計7店で実施

東急百貨店：9/10～12、東急東横店（渋谷区）にて実施

三越：10/31～11/6、日本橋三越本店にて実施

イトーヨーカ堂：3/9～10、都内3店舗にて実施

○マスメディア・インターネットを活用したPR

- ・「楽天レシピ」と連携し、「飛騨牛アイデアレシピコンテスト」実施（8/22～9/5）
- ・「楽天市場」での「ぎふ飛騨牛フェア」開催（10/1～11/1）
- ・楽天（株）との上記連携事業の一環として、雑誌「おとなの週末」とタイアップし、「飛騨牛朴葉味噌焼セット」などを特集ページで紹介（11月号）

※商工政策課と連携して実施

- ・プロ向け情報誌「料理王国」主催の「第5回新年シェフ交流会」とタイアップし、岐阜県ブースにて飛騨牛、美濃娘（いちご）、飛騨やまっこ（菌床しいたけ）、名水わさびのPR、売り込みを実施した他、料理人によるデモンストレーションに飛騨牛等を提供。

■農産物のトップブランドづくりの推進

○かき（柿）

- ・新ブランド「果宝柿」の定着に向けて、引き続き推進し、産地に対して、高糖度で外観品質の良い「袋掛け富有柿」の生産に必要な技術の普及に努めた。

- ・早生品種から「果宝柿」までを「岐阜柿おすすめ五選」として、都市圏の果物専門店・量販店にて消費宣伝PR・販売促進イベントを開催し、消費者の認知を高めた。
- ・試験研究の取組として、かきの硬さに着目し食べ頃に関する調査に取り組み、食べ頃指標を作成した。

○くり

- ・くり振興策の一環として、東美濃栗振興協議会40周年記念大会に後援し、「ぼろたん」普及の現状と今後の取組、「ぼろたん」の特性と栽培上の注意点、「ぼろたん」レシピの紹介を実施した。
- ・「ぼろたん」の認知度向上に向け、主産地の東美濃ぼろたん研究会により、県農業フェスティバルや地域のイベントにて、「ぼろたん」焼き栗による消費宣伝PRを行った。

■6次産業化による県産農産物を活用した新商品開発の推進

農産物の付加価値を高め儲かる農業を実現するため、農業者自らによる加工販売の取組や農業者と商工業者が連携して加工・販売に取り組む農商工連携など「農業の6次産業化」を促進。

○商品開発への支援

- ・6次産業化に取り組む農林漁業者等が抱える課題の解決のために、商品開発や販売戦略、経営管理等に関する専門的知見や資格を有する人材を「6次産業化実践アドバイザー」として派遣。
- ・6次産業化を目指す認定農業者、農業法人、農村女性グループ等に対して、自ら生産する農産物を利用した加工食品の商品開発に必要な機械等の整備費の一部を助成。

○多様なマッチング機会の提供

- ・農業者と県内及び中京圏の食品関連事業者とのマッチング機会の創出及び業務用需要の拡大を図るため、外食産業を中心とした事業者のバイヤー等を対象に産地見学会、商談会を開催。

(ひだみの農産物・加工品産地見学会)

- ・第1回／飛騨地域（平成24年8月1日）
- ・第2回／恵那地域（平成24年9月7日）

(ひだみの農産物・加工品商談会)

- ・第1回／岐阜市（平成24年11月13日）
- ・第2回／名古屋市（平成25年1月29日）

○開発商品の販路拡大

- ・商談会等における成約率を高めるため、商談会の心得や効果的な商品プレゼン手法等を習得する出展者研修会を開催。（2回）
- ・インターネットを活用した販売に必要なノウハウ、条件等を習得するネット販売研

修会を開催。(6回)

- ・6次産業化商品をWeb上でテスト販売が行えるネットショップ「飛騨・美濃ふるさと企画」を開設するとともに、「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」に合わせて楽天市場において「清流ぎふ物産展」を開催。(平成24年9月14日～10月15日)

■ぎふクリーン農業をベースとした売れる農産物づくりの推進

- 環境への負荷が少ないぎふクリーン農業をベースに、安全、安心で売れる農産物づくりを推進し、生産登録面積は16,874ha、県内作付面積の約3分の1まで拡大した(H25.2)。
- 農業者組織等がぎふクリーン農業に取り組む又は取組み面積を拡大するのに必要な機械・施設の導入を支援した。
 - ・事業名：飛騨・美濃じまん農産物育成支援事業(県単)
 - ・支援件数：78件 総事業費736,899千円、補助金額158,513千円
 - ・導入例：新規就農者の栽培施設導入(いちご高設栽培施設)
農薬の使用回数を削減するための防虫ネット(えだまめ)、防蛾灯(もも)の導入
- 緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、マスメディアを活用したPR、量販店や直売施設の店頭でのPRイベントの実施(102日)、産地見学ツアーの開催(2回)および保育園・幼稚園児を対象とした食育活動(19園)を通じて、ぎふクリーン農産物のPRを行った。
- 生産者と実需者を結びつける「マッチング推進員」2名を設置し、量販店にぎふクリーン農産物コーナーの設置や新たにコンビニエンスストアに販路拡大を行った。また、食品加工業者との契約出荷を前提としたキャベツ、タマネギなど加工野菜を営農組織等に作付けを働きかけ新たな産地づくりを推進した。

■県産農産物等のPR、販路拡大

県産農産物の市場を拡大し、農産物出荷額の向上を図るため、農業団体等が行うメディアや消費者へのPR、大都市圏への販路拡大などの取組を支援するとともに、農業者によるレストラン等業務需要者への販路開拓を支援するための商談会等を県が主体となり実施した。

○飛騨美濃農産物大都市キャンペーン開催支援

本県の主要青果物である「ほうれんそう」、「トマト」、「いちご」、「富有柿」などについて、首都圏、大阪圏、中京圏等の市場と連携した販売促進活動の展開の他、新たな販路開拓に向けた商談活動を行った。

【首都圏】

- ①量販店の店頭での試食販売フェアの開催

- ・飛騨牛PR販売フェアと連動した量販店でのPR販売フェアの開催

②レストランへの売込み

◆ぎふ丸の内ウィーク（10月22日～10月28日）

- ・飛騨牛を使用したメニューフェア実施。食材提供。

◆資生堂パーラー（11月6日～12月10日）

- ・飛騨牛を使用したメニューフェア実施。食材提供。

③イベントへの参加

- ・4/20～4/22、「第10回 MID-MARKET」（場所：東京ミッドタウン）において、飛騨牛串焼き実演販売によるPRを実施
- ・2/19～2/20、JAグループ国産農畜産物商談会（場所：東京国際フォーラム）に出展し、飛騨牛、飛騨旨豚、飛騨牛カレーのPRを実施。

【関西圏】

①量販店の店頭での試食販売フェアの開催

- ・全農岐阜が主体となり、量販店の店頭において、ほうれんそう、枝豆、トマト、やまっこしいたけ等の試食販売フェアを開催。

②レストランへの売込み

- ・H23年度ぎふを味わおうキャンペーン参加店舗等への県産農産物利用の働き掛け、商談→7/14 3軒、8/11 2軒訪問し、パンフレットやサンプルを配布し県産農産物利用の案内をした。

③せんちゅうパル岐阜県観光物産展2012

- ・12/1～12/2 観光連盟が主催する物産展に出展し、やまっこしいたけの試食販売PRを実施。

④アグリフードエキスポ in 大阪

- ・2/21～2/22 飛騨牛・美濃ヘルシーポーク・飛騨旨豚の展示商談会への出展。

【中京圏】

①量販店の店頭での試食販売フェア

- ・全農岐阜が主体となり、量販店の店頭において、ほうれんそう、枝豆、トマト等の試食販売フェアを開催

○大都市圏での農産物PR販売支援

①都心部において開催される青空市「マルシェ・ジャポン」への出店

- ・県が主体となり、都心部において開催される青空市「マルシェ・ジャポンなごや（金山総合駅南口）」へ農産物等を出店
（H24.4～H25.2の各第3土日開催（※基本）、計18日間、延べ25団体出店）

②飛騨美濃ふれっしゅ直行便の開催

○青果物フェアの開催支援

- ・全農岐阜県本部が出荷市場と連携して行う販売促進活動に対する支援

関西圏（量販店延べ24店舗）、中京圏（量販店延べ79店舗）で実施

■地産地消・業務需要拡大の推進

県産農産物等の地産地消・業務用需要拡大を推進するため、飛騨美濃ふれっしゅ直行便の開催、北陸圏での県産農産物の販売PRの実施、業務用需要拡大に向けた産地見学会および商談会等を開催。

- 県産農産物とその加工品を一堂に集めてPRする第26回岐阜県農業フェスティバルを県庁周辺で開催。（平成24年10月27～28日）
- 県産農産物と県内の朝市・直売所を中京圏でPRするため「飛騨美濃ふれっしゅ直行便」を名古屋市で開催。（金山総合駅イベント広場4回）
- 県産農産物等のイメージアップを図るため県外でのイベントを通じてPRを実施。
 - ・とやま食の王国フェスタ2012／富山市（平成24年11月3～4日）
 - ・農林水産祭実りのフェスティバル／東京都（平成24年11月9～10日）
- 農業者と県内及び中京圏の食品関連事業者とのマッチング機会の創出及び業務用需要の拡大を図るため、外食産業を中心とした事業者のバイヤー等を対象に産地見学会、商談会を開催。
 - （ひだみの農産物・加工品産地見学会）
 - ・第1回／飛騨地域（平成24年8月1日）
 - ・第2回／恵那地域（平成24年9月7日）
 - （ひだみの農産物・加工品商談会）
 - ・第1回／岐阜市（平成24年11月13日）
 - ・第2回／名古屋市（平成25年1月29日）

■活力ある新産地づくり支援事業

地域の特徴を活かした11品目の農産物で「活力ある新産地づくり」を推進するため、各農林事務所の普及指導員が、高い専門技術力及びコーディネート機能を発揮して、各産地の技術力の向上、新規生産者の確保、新商品開発等の支援を行った。

【新技術の確立・向上】

- ・栽培等マニュアルの作成・改定、実証ほ及び展示ほの設置、栽培研修会の開催

【新規栽培者の確保】

- ・栽培見学・展示・体験、募集PRチラシ等の作成

【新商品開発等】

- ・加工研修会の開催、加工品の試作の支援

【試験研究機関による開発力の強化】

- ・新品種の育種、現地で課題解決に必要な研究開発

■飛騨・美濃伝統野菜のPR

- ・県内の特色ある野菜・果樹の中で「飛騨・美濃伝統野菜」として、認証制度設立（平成14年度）以降、現在に至るまでに27品目を認証している。
- ・認証した品目については、「飛騨・美濃伝統野菜」認証マークを添付した販売や、イベント等で特徴について紹介したリーフレットの配布、マスコミ・フリーペーパー等でのPRを行った。

■フードビジネス・ステップアップ事業

平成23年度フードビジネス振興事業で取りまとめた県内食品製造・加工業者の情報を活用し、販路拡大や商品開発、ビジネス展開力向上のためのセミナーやワークショップ、商談会、県産品フェアを実施し、県内食品製造・加工業の利益の拡大と継続的な発展を図った。

また、ぎふ清流国体ミナモ広場において、県内外から来場された方に対し、県産品フェアを行い、県産品のPRに努めた。

【商談会】

日本橋三越催事商談会	平成24年7月2日(月)～3日(火)	岐阜市他
通販食品展示商談会	平成24年8月28日(火)～29日(水)	東京都
飛騨美濃フーズマッチングフェア in 岐阜	平成24年11月13日(火)	岐阜市
イトーヨーカドー・セブンネット商談会	平成24年11月30日(金)	岐阜市
飛騨美濃フーズマッチングフェア in 名古屋 with ぐるなび	平成25年1月29日(火)	名古屋市
FOODEX JAPAN 2013	平成25年3月5日(火)～8日(金)	千葉市

【県産品フェア】

こだわりグルメフェア「岐阜県のサマースイーツ特集」	平成24年6月30日(土)～7月1日(日)	大垣市
日本橋三越「岐阜特集」	平成24年9月5日(水)～11日(火)	東京都
ぎふ清流国体ミナモ広場	平成24年9月29日(土)～10月9日(火)	岐阜市
こだわりグルメフェア「岐阜の銘品特集」	平成25年2月16日(土)～17日(日)	石川県

■「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランドの研究開発の推進

「ぎふ清流国体・清流大会」を県農産物・地場産物をPRする絶好の機会と捉え、県の試験研究機関と生産者団体や企業が一体となり、新しい花、食材、食器などの研究開発を行い、新たな地域ブランドとなるような産品づくりを進めてきた。

平成24年度は新ブランド7品目の研究開発がほぼ終了し、ほとんどの品目で販売が始

まりつつある段階になったため、「ぎふ清流国体・清流大会」開催前及び開催期間中に、研究成果と開発品のPRを行った。

○高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン大会でのPR

平成24年5月20日に行われた第2回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン大会において、ブランド開発品7品目の紹介ブースを設け、研究成果と開発品のPRを行った。また、開発品である霜降り豚肉の試食ブースを併設し（農政部）、試食・PRを行った。



花き新品目



カジカ

研究成果パネル・開発品展示風景

○「ぎふ清流国体・清流大会」開催期間中でのPR

平成24年9月29日～10月15日に開催された「ぎふ清流国体・清流大会」の開催期間中を通して、メモリアルセンター芝生広場にブランド開発品7品目の紹介ブースを設置し、研究成果と開発品のPRを行った。また、開発した技術を用いて作成した50%リサイクルコップをクイズラリーの景品として配布しPRに務めた。

霜降り豚肉、クリ「ぼろたん」、柿「早秋」「太秋」の試食ブースを併設し（農政部）、試食・PRを行った。

○「ぎふ清流大会」での開発品の配布

「ぎふ清流大会」開催期間中に、県内12会場において、開発した技術を用いて作成した50%リサイクルコップを抽選会の景品として配布し、リサイクル陶器のPRに務めた。



PRブースでの開発品の説明風景



景品とした50%リサイクルコップ

■ぎふの味・伝承名人認定事業による県産品のPR

県内の調理技術に優れた調理師を対象に岐阜県産の「こだわり食材」を使用した料理コンクールを開催し、優秀な成績を収めた2名を「ぎふの味・伝承名人」に認定した。コンクールの食材に県産品を指定することにより素材のPRを行った。

○平成24年度ぎふの味・伝承名人認定コンクールの開催

開催日：平成24年8月23日

場 所：城南高等学校

課 題：主材料は、県内産淡水魚を必ず使用すること。副材料は県産のトマト・ほうれん草・大根・ナスのうち2品以上使用すること。



■ぎふ性能表示材のブランド化の推進

制度を運営する「ぎふ性能表示材認証センター」を創設し、含水率や曲げ性能などの品質・性能を表示する「ぎふ性能表示材」の安定供給体制整備を進めた。

ぎふ性能表示材	
ぎふ性能表示材認証センター認定工場 第○○○号	
商標名(銘柄名)	ヒノキ
寸法	300 300 18 120 × 240 × 4
積り仕組	GE-7.0
含水率	GSD-2.0
材目の等級	特一
製造業者名 ○○○製材所 (ぎふ性能表示材認証センター会員)	

【ぎふ性能表示材ラベル】

■ぎふの木で家づくりの推進

県産材の利用促進を図るため、住宅の構造材や内装材に一定量の県産材を使用した建築主に対し、経費の一部を助成した。(平成24年度実績：構造材補助189棟、内装材補助101棟)

5 まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト

■「まちづくり支援チーム」「ふるさと応援チーム」の派遣等によるまちづくり支援の推進

地域主体で行われるまちづくりに対する一元的な相談窓口「まちづくり総合窓口」を設置し、実際に現地に赴いて各地域の実情を把握することにより、効果的な対応と支援策を住民の方々と一緒に進めていく「まちづくり支援チーム」を3地区（継続3）に派遣した。

また、過疎、山村地域などの農村部の元気づくりを支援するための「ふるさと応援チーム」を3地区（継続3）に派遣した。

さらに、チームの派遣地区において、自立的なまちづくり活動を促す「自立的まちづくり応援補助金」により活動を支援した。

【まちづくり支援チームの派遣】

○土岐市駄知地区（平成20年5月～平成25年3月）

陶磁器による産業観光を活かしたまちづくりを目的に、交流人口の増加による地域経済の活性化、陶磁器産業のブランド力の向上が図られるようイベント実施等を支援した。県の支援チーム派遣期間は終了したが、今後も自立的な活動が継続して行われることを期待し、駄知地区を「元気なふるさと」として認定した。

<24年度派遣実績> 延べ7回



<土岐市駄知地区>

駄知町地域産業活性化委員会

○御嵩町御嶽宿地区（平成20年9月～平成25年3月）

地域内の歴史資源である旧中山道御嶽宿における景観整備や、願興寺、みたけの森、中山道謡坂等の資源を活用した交流イベントの実施など、交流人口の増加に向けた取組を支援した。県の支援チーム派遣期間は終了したが、今後も自立的な活動が継続して行われることを期待し、御嶽宿地区を「元気なふるさと」として認定した。

<24年度派遣実績> 延べ11回

○土岐市土岐津町高山地区（平成23年11月～）

歴史と文化を活かしたまちづくりを進めるため、地域住民によるまちづくりビジョンの策定や、遊歩道の整備、高山城戦国合戦まつりの開催、交流拠点施設の整備等を支援した。

<24年度派遣実績> 延べ9回

【ふるさと応援チームの派遣】

○郡上市明宝地区（平成22年9月～平成25年3月）

移住定住の推進、特産品開発（ブランド化）、観光交流活動などの活動を連携させ、人口流出抑制と地域経済の振興を図るため、地域住民によるワークショップの開催や、イベント実施を支援した。県の応援チーム派遣期間は終了したが、今後も自立的な活動が継続して行われることを期待し、御嶽宿地区を「元気なふるさと」として認定した。

<24年度派遣実績> 延べ4回

○関市板取地区（平成23年8月～）

都市部との交流人口の増加を図るため、緑豊かな自然を生かして実施する子ども農山漁村体験プログラム事業のPR、関市板取あじさいまつりの開催、あじさい剪定講習等の支援を行った。

<24年度派遣実績> 延べ10回

○関市上之保地区（平成23年8月～）

「上之保地域振興計画」に基づいて地域住民が実施する三十三観音マップの作成や、ゆず祭りの開催、ゆずの6次産業化等を支援した。

<24年度派遣実績> 延べ12回

【自立的まちづくり応援補助金の交付】

まちづくり支援チーム、ふるさと応援チームの派遣地域において、活動を進める団体が地域の魅力を向上させるとともに、住民の参画意識の高い自主・自立的なまちづくり活動を促すため、住民自ら行う町並みの景観整備、交流拠点整備等に対して補助した。

<24年度交付実績> 3件 1,200千円



＜御嵩町御嶽宿地区＞

牡丹植栽による修景整備

■先進的まちづくり活動の情報発信

県内の地域資源を活かした先進的なまちづくり活動を県内外へ情報発信するため、県内12地区のまちづくり活動の映像を制作し、テレビ放送、インターネットでの配信により広くPRするとともに、まちづくりのノウハウの共有化を図った。なお、2地区（郡上市明宝地区、恵那市岩村地区）については、スタッフが現地に長期滞在し、地域住民と一緒にまちづくり活動に参加しながら、情報発信を行った。

映像化の対象となった地区では、その活動がテレビ等で広く紹介されることにより意欲の向上とPRにつながった。また、他地区の活動を知って「自分たちもあれを目指して頑張ろうと思った」「その地区と交流してみたい」という声もあがっている。

○映像制作実績

【スタッフ滞在地区 2地区】（各7本の映像を制作）

地区名	概要
郡上市明宝	明宝で活動する団体（ビスターリマーム、めいほう鶏ちゃん研究会、ふるさと栃尾里山倶楽部、こうじびら山の家、ふる里めいほう、明宝青年団、ななしんぼ）の取組内容の紹介
恵那市岩村	イベント（いわむら城下おかげまつり、いわむら城下町のひなまつり）の改革、「いわむらをデザインする会議」による10年先、20年先を見据えたランドデザインづくりなど

【その他の地区 10地区】（各1本の映像を制作）

地区	概要
御嵩町御嶽宿	【みたけ華ずしの会】 新たな郷土料理「みたけ華ずし」の開発・普及の取組
飛騨市古川町	【株式会社美ら地球（ちゅらぼし）】 飛騨の魅力の世界に向けて発信し、外国人を誘客
土岐市駄知町	【駄知町地域産業活性化委員会】 陶磁器産業を活かした産業観光のまちづくりの取組

飛騨市宮川町 種蔵	【種蔵を守り育む会】 集落維持が困難な種蔵で、板倉や石積みの棚田のある里山の風景を守る取組
美濃加茂市 太田宿	【きそがわ日和実行委員会】 アートを活用してまちの魅力を引き出す取組
大垣市	【石黒塾】 オオガキ珈琲ブランド商品の開発や元気ハツラツ市の開催など、若手による商店街からの地域活性化の取組
関市上之保	【上之保ふれあいのまちづくり推進委員会】 町役場のような住民組織で既存の団体の活動をまとめ、住民の交流活動を実施
揖斐川町谷汲	【谷汲門前街並みづくり委員会】 景観整備、手作りの飾りつけ、定期的なイベント、イメージキャラクターの活用による門前町のにぎわいづくりの取組
各務原市 鵜沼宿	【中山道鵜沼宿ボランティアガイドの会】 鵜沼宿の歴史や文化を、ガイド活動やかるた、料理を通じて楽しく伝える活動
岐阜市玉宮町	【玉宮まちづくり協議会】 自主的なルール「玉宮通りまちづくり協定」による魅力ある街並みづくりの取組

■食による地域おこしの取組支援

県内の各地域が主体となった「食による地域おこし」の取組に対して、活動の充実と情報発信力を高めるための応援事業を実施した。

○県内の「食による地域おこし活動」の状況把握と効果的な情報発信

アンケート調査、ヒアリングの実施などにより団体の活動内容を把握し、ハンドブック「岐阜食物語」（6,000部作成）にまとめて配布するとともに、ホームページ、フェイスブックにより活動内容の紹介・PRを行った。

○地域おこし活動のPRにふさわしいイベントの企画・運営

体験交流型イベントとして、長良川流域を対象に「長良川まんぱく（長良川まんぷく博覧会）」を平成25年2月9日から3月3日までの3週間にわたり開催した（20団体が22プログラムを提供。参加者402名）。また、2月9日にJR岐阜駅前信長ゆめ広場において開催したオープニングイベントには22団体の出展があり、約6,000名の来場があった。

○県内の食による地域おこしに取り組む団体や人材の育成

取組意欲を啓発するシンポジウム（1回）、まちづくり活動の手法を学ぶ連続講座（6回）、講師が現場へ入り、地域の食資源のブラッシュアップなど活動内容に応じたアドバイスを行うフォローアップ講座（4回）を開催した。また、長良川まんぱくの出展に向けて、提供プログラムの企画から運営までのノウハウを学ぶプログラム研修（4回）を実施し、イベント出展未経験の団体などに対し、体験交流型イベントを含めた活動実践の場を提供した。



シンポジウム会場



長良川まんぱくオープニングイベント会場

■過疎地域集落实態調査の実施

過疎地域集落対策の実施に当たっては、各地域の実情に応じたきめ細かな対応が求められることから、各集落实態を十分に把握した上で進めていくことが重要。

そこで、県内の過疎地域における集落機能等の実態を把握し、これらの地域の現状や課題、その特性や可能性などを整理し、今後の具体策の検討の基礎的な資料とするため、過疎地域集落实態調査を実施した。

県内の過疎地域市町村の高齢化集落（155集落）を対象とした集落代表者へのヒアリング調査と住民へのアンケート調査（3,159世帯）により、生活実態や支援ニーズを把握。

「過疎地域集落实態調査」の結果取りまとめ及び今後の支援策の提案については、「岐阜県政策研究会」の中でも議論・研究され、その発表及び支援策の提案がなされた（平成25年2月）。

「岐阜県政策研究会」で行われた「過疎地域集落实態調査」を基にした研究内容は平成25年度当初予算に反映されている。

■過疎地域集落活性化実践リーダー養成事業

過疎地域における集落の維持・活性化活動の中心的な存在となる人材（実践リーダー）の養成を目的として地域づくりのノウハウ等を習得できる講座を開設し実施。

県が実施した「過疎地域集落实態調査」の結果を本養成講座に取り入れることで、実情

に即した地域づくり講座を開催。

岐阜会場での受講者、高山会場での受講者に分かれて、それぞれが合計4日間、8講座を修了、最終日は岐阜会場に集まりワークショップでグループ毎に取りまとめた地域づくりのアイデアを発表。

講座の企画や実施にあたっては、地域づくりを専門とする県内の大学等研究機関（岐阜経済大学、森林文化アカデミー）との連携を図った。

修了生は約50人となった。

■移住・定住の推進

人口減少社会においても地域が活力を保ち続けるために、「地域の将来を支える人を呼び込む」という視点から、岐阜県の魅力を広く発信し、本県への移住・定住を促進する各種事業を実施した。

○ぎふ ふるさと暮らし応援キャンペーンの実施

田舎暮らしの魅力や相談会、体験ツアーなどの情報を愛知・名古屋の住民に発信するキャンペーンを実施

実施期間：平成24年7月～平成25年3月

内 容：ぎふふるさと暮らし応援センターの設置

(中日ビル(名古屋市中区栄)・来場者数約37,000名)

キャラバン隊によるPR活動(名古屋市内等・延べ16箇所)

○移住・定住相談会の開催

本県への移住相談の多い愛知・名古屋圏にて定期に出張相談窓口を開設

「月例・名古屋相談会」(年12回[毎月10日]・参加者数121名)

「総合移住相談会 in 名古屋」(年2回[7月・1月]・参加者数140名)

「子育て世代移住相談会 in 名古屋」(年1回[11月]・参加者数約150名)

○地域の世話役養成塾の開講

市町村から推薦のあった世話役候補者を対象に、先進的な取組に関する情報収集や、世話役相互のネットワークづくりを行うための養成塾を開講

場 所：篠脇山荘[古今伝授の里フィールドミュージアム内](郡上市)

出席者：世話役候補者11名、市町村担当者7名



ぎふふるさと暮らし応援センター
(H24.7～H25.3)



総合移住相談会 in 名古屋
(H24.7.29、H25.1.27)



地域の世話役養成塾
(H24.10.29)

■グリーン・ツーリズムの推進<再掲>

■棚田の保全と魅力のPR

棚田保全に対する意識向上を図るため、棚田の魅力や保全活動の必要性を普及し都市住民等に活動参加を促すなどの棚田保全活動の推進、支援を実施した。

○普及啓発活動

「ぎふの棚田21選」PR看板等の設置：1地区

- ・野上棚田（下呂市）
- ・「ぎふの棚田21選」PRパンフレットによる普及啓発

○棚田保全組織への支援

棚田保全活動への支援を実施：6地区

- ・坂折棚田保存会（恵那市）
- ・栃久保棚田保存会（恵那市）
- ・猪狩棚田保存会（恵那市）
- ・種蔵を守り育む会（飛騨市）
- ・小川高洞棚田保全会（下呂市）
- ・貝原棚田保存会（揖斐川町）



ぎふの棚田21選パンフレット



棚田保全活動（農業体験）

■ぎふ水土里の魅力再発見

豊かな生態系や美しい景観、農村固有の伝統文化など県内の農村にある魅力を広く県民の方々に知ってもらおうと共に、多くの方が農地や農業用水等の地域資源に触れ、県全体で魅力ある農村づくりに取り組む運動を実施した。

○普及啓発活動

- ・ぎふ水土里の展示会（ぎふ清流国体・清流大会や農業フェスティバルなど各圏域で実施）
- ・ぎふ水土里の体験スタンプラリー（県内各地9回開催：延べ1,156人）

○体験活動

- ・農地・水・農村環境保全向上活動（396組織：約21,400ha）

- ・ぎふ水土里の探検隊（4地区）
- ・ぎふ田んぼの学校（県内各地12校）



ぎふ水土里の体験スタンプラリー
（ウォーキング）



ぎふ田んぼの学校
（水路の生き物調査）

■小規模・高齢化集落における営農システムの確立支援

県下の中山間地域における担い手のいない小規模・高齢化集落より選定したモデル集落（3集落）へ、県職員で組織する「集落営農等組織化支援チーム」を派遣するとともに、集落住民が試行的に実施する各種プロジェクト活動をコーディネートする「集落営農支援員」を設置し、集落営農の組織化など集落住民が共同で農地を守る営農システムの確立に向けた活動を支援した。

【各モデル集落の活動概要】

集 落 名 （農家戸数、耕地面積）	集落営農支援員	主な活動概要
本巣市根尾能郷集落 （10戸、12ha）	60代男性 本巣市出身	・集落営農の組織化に向けて、農業機械の共同化活動、防草シートの共同設置活動 等 ・平成24年7月18日に集落営農組織を設立。
白川町下佐見室山集落 （6戸、5ha）	30代男性 名古屋市出身	・岐阜大学の学生との農作業ボランティア交流による農地保全活動を試行的に実施。 ・収益性の高い新規作物（タラの芽）の導入による集落農地を守る活動を開始。
土岐市鶴里町柿野西町集落 （13戸、5ha）	—	・集落内の遊休農地を共同で管理する集落営農の組織化に向けて、耕作放棄地解消活動 等 ・平成25年3月18日に集落営農組織を設立。

■JR岐阜駅周辺地域における国体歓迎イベントの開催

県都の玄関口であるJR岐阜駅周辺施設において、駅周辺での消費拡大、県民の国体への参加意識の向上、並びに他県からの来岐者に対する「おもてなし」と「岐阜県のPR」を目的としたイベント等を実施した。

○ J R岐阜駅周辺施設等の飾り付け事業

日時：平成24年5月18日（金）～ 10月16日（火）

会場：J R岐阜駅周辺施設

内容：ぎふ清流国体が67回目の国体開催のため「67体」の等身大ミナモをJ R岐阜駅周辺施設に設置。ぎふエキマエ国体まつり開催中は、パネルにクイズ問題を取り付けJ R岐阜駅周辺施設すべてを回遊するようにした。又、4ヶ月かけて幅9m×高さ10mの巨大フラッグを作成。9月に掲揚式を行い、ぎふ清流大会が終了まで掲示した。

○ 駅周辺施設フリーペーパー作成事業

内容：全国から来岐される選手等に「第2回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」の実施にあわせたイベント内容やJ R岐阜駅周辺の店舗、お薦めのメニューを紹介。30,000部を作成。又、9月には、ぎふ清流国体・大会の実施期間中にあわせ、中心市街地のガイドブックとなるフリーペーパーを30,000部作成した。

○ ぎふエキマエ国体まつり開催事業

日時：平成24年5月19日（土） 11:00～16:00

平成24年5月20日（日） 10:30～16:00

平成24年9月16日（土） 11:00～16:00

平成24年9月17日（月・祝） 11:00～16:00

会場：J R岐阜駅周辺施設一帯

内容：5月に開催される「第2回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」の実施にあわせステージイベントや屋台村を実施し、ぎふ清流国体・大会のPRと、全国から来岐される選手等にJ R岐阜駅周辺のPRを実施。9月には、ぎふ清流国体・大会の開催に先立ち、両大会開催の機運盛り上げとともに、J R岐阜駅周辺の活性化を目的に実施。岐阜県内の特産物を使用した屋台村や清流長良川親善大使である水森かおりさんによるコンサートなどのステージイベントを実施した。

■ 地域消費拡大につながる「人が呼べるまちづくり」への支援

「ぎふ清流国体・大会」を契機として「人の呼べるまちづくり」を目的として22事業を実施した。

<主な事業>

- ・清流の国づくりフラッグアート展（岐阜市）
- ・中心市街地アートフルタウン事業（大垣市）
- ・観光飲食マップ作成配布、賑わせ事業観光飲食マップ作成配布、賑わせ事業（美濃加茂市）
- ・清流国体「レスリングモミュメント」設置事業（中津川市）
- ・清流国体下呂温泉おもてなし事業（下呂市）

- ・清流の国づくり「商店街 de ウォーキング」(高山市)
- ・清流の国づくりまちなか活性化推進事業「ぐるっとマルシェ in 飛騨古川」(飛騨市)

■地元と連携した中心市街地への誘客促進

柳ヶ瀬の活性化を目的として、地元商店街やまちづくり団体等と連携して以下の事業を実施した。

○柳ヶ瀬大乾杯

日 時：平成24年9月28日(金)

会 場：柳ヶ瀬本通

参加者：約1200人

趣 旨：国体開幕前夜に国体・大会開催を祝して開催

○R-25 YANACON (ヤナコン)

日 時：平成24年11月23日(金) 15:00~20:00

参加者：323名

参加店舗：10店舗

内 容：昼の部 15:00~16:30

謎解きラリー「LOVE ミッション」

夜の部 17:00~20:00

R-25 YANACON (25歳以上限定街コン)

○ヤナカフェ

日 時：10月6日(土)~12月9日(日)の土日祝オープン(営業：22日間)

会 場：柳ヶ瀬レンガ通りの空き店舗

内 容：空き店舗を活用したコミュニティカフェとして、各種イベントを週替わりで行うことにより同じ趣味を持つ人たちが柳ヶ瀬に集うカフェとして運営。

■電線共同溝事業の推進

都市災害の防止、安全で快適な歩行空間の確保、歴史的町並の保全等都市景観の向上を図るため、引き続き道路上の電線類の地中化を推進した。

〈無電柱化推進計画に基づく整備状況〉

- ・第一期電線類地中化計画(昭和61年~平成2年)：7.30km
- ・第二期電線類地中化計画(平成3年~平成6年)：7.25km
- ・第三期電線類地中化計画(平成7年~平成10年)：17.51km
- ・新電線類地中化計画(平成11年~平成15年)：22.18km
- ・無電柱化推進計画(平成16年~平成20年)：13.14km
- ・第二期無電柱化推進計画(平成21年~平成25年)：36.3km

※第二期無電柱化推進計画の36.30kmについては整備予定延長

■中山道統一デザイン案内標識設置の促進 〈再掲〉

■美しいひだ・みの景観づくりの推進

地域の自然や歴史と調和した景観の保全を図るため、市町村の景観行政団体への移行、景観計画の策定を支援するとともに、屋外広告物対策を推進した。

- 県内の景観行政団体：21団体（平成25年3月末現在）
- 県内の景観計画策定団体：14団体（平成25年3月末現在）
- 景観形成推進員の設置

岐阜県景観基本条例に基づき、県民と一体となって県土の良好な景観の形成を図るとともに、県民の良好な景観の形成に関する意識の高揚を図るため、県内在住の68名の方を景観形成推進員に委嘱した。

○屋外広告物対策の強化

屋外広告物に対する県民の意識高揚と良好な景観の形成を図ることを目的として、9月1日から9月10日の「屋外広告物適正化旬間」において、県下全市町村において一斉に違反広告物の簡易除却及び街頭啓発活動を実施した。

- ・平成24年度除却件数：294件



屋外広告物適正化旬間における街頭啓発活動

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援

伝統的な街並みを保存し、今の時代に生きる生活の舞台として整備し次世代に継承するため、国が選定した重要伝統的建造物群保存地区6地区について、当該市村の保存事業に関し指導助言を行うとともに、修理・修景などの保存修理等事業に対して補助を実施した。

＜重要伝統的建造物群保存地区＞

- ・高山市三町伝統的建造物群地区
- ・高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区
- ・美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区
- ・恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区
- ・郡上市郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区
- ・白川村荻町伝統的建造物群保存地区

6 「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト

■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会県民運動（ミナモ運動）の展開

両大会直前及び期間中における県民参加機会を創出するとともに、「ギフ流おもてなしガイドライン」に基づいた来県者及び来場者へのおもてなし活動を行った。

- 岐阜メモリアルセンターの近隣9小中学生延べ約7,500名により、都道府県（政令指定都市）応援団を編成し、両大会開・閉会式において各選手団を歓迎・応援。
- 県内26の高校書道部による手づくり歓迎のぼり旗及び県内30の小学校によるおもてなしメッセージボードを開・閉会式会場の選手控え所等に設置。
- 岐阜メモリアルセンターの近隣6小中学校、花の愛好団体（日本ハンギングバスケット協会岐阜県支部、寄せ植え華道協会）、国際園芸アカデミーが参加し、開・閉会式会場の花かざりを実施。
- ミナモダンスコンテスト（地区大会及び決勝大会）を実施し、優秀チームによる国体総合開会式オープニングプログラムへの出演機会を創出。
- 高速道路（42箇所）、県境道路（8箇所）、駅（3箇所）、空港（1箇所）等にのぼり旗、横断幕、フラッグにより歓迎装飾を施し来県者を歓迎。
- 受付、案内、入場整理、会場美化、式典運営補助、情報支援、選手団のサポートなど、開・閉会式運営や競技運営に関する活動に参加。

ぎふ清流国体延べ約12,000人（市町村のボランティア含む）

ぎふ清流大会延べ約11,000人

■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会文化プログラム

多くの県民が芸術・文化活動を通じて両大会に参加することにより、県民総参加の大会とするとともに、豊かな自然や風土にはぐくまれた岐阜県の芸術・文化を全国に向けて発信。

- 実施期間：平成24年1月1日～12月31日
- 実施事業数：315事業（岐阜113事業、西濃55事業、中濃61事業、東濃56事業、飛騨30事業）
- 両大会期間中の県関係機関での事業実績
 - ・ 県博物館
 - 飛騨・美濃の信仰と造形ー古代・中世の遺産ー（H24.9.21～10.28） 14,682人
 - 岐阜、染と織の匠たち 人間国宝三人展（H24.9.21～11.4） 12,209人
 - ・ 県現代陶芸美術館
 - MINO CERIMICS NOW Part2（H24年9.1～11.11） 4,748人

・ 県美術館

開館30周年記念

マルク・シャガール - 愛をめぐる追想 (H24. 9. 5～10. 28) 40,635人

■ 清流の国ぎふづくり県民大会の開催

全国豊かな海づくり大会を契機に高まりをみせた森川海が一体となった環境保全に対する県民意識を継承し、岐阜県の誇る「清流」を守り、活かし、次世代に伝えていく取組みを「清流の国ぎふ」づくりとして、県民協働で推進するため、平成24年7月15日に、「第2回清流の国ぎふづくり県民大会」を高山市において開催した。

本大会では、ぎふ清流環境賞の表彰、「エコツアーの魅力と楽しみ方」をテーマとするトークセッションのほか、環境保全団体等の活動展示、ワークショップ、グルメフェアなどを行い、県民の環境保全に対する意識の醸成を図った。



ぎふ清流環境賞の表彰



トークセッション



環境保全団体等の活動展示



グルメフェア

■ 清流の国ぎふづくり上下流交流事業

岐阜県の誇りである「清流」を守り、活かし、次世代に伝える取組みを清流の国ぎふづくりとして県民協働で推進していくため、上下流域の地域住民が、森川海のつながりや相互の自然環境等に理解を深めて、環境保全意識を育むツアーを実施した。

○ 県内及び近隣県にお住まいの親子を対象として、岐阜県を流れる主要河川をたどるツアーを、17回開催し、県内外から親子等約431人の参加を得た。

○ツアーでは、森川海のつながりについて参加者の意識を高める環境学習、自然体験、環境保全活動などを実施した。



長良川カヌー体験（郡上市）



海岸清掃活動（名古屋市藤前干潟）

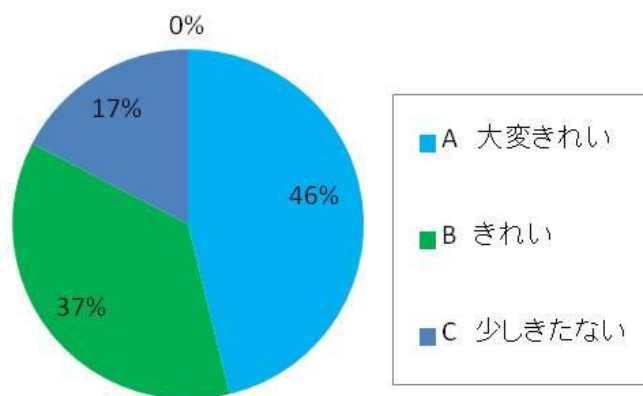
■一万人県民による河川調査

各自がもつ「感覚」を用いて身近な河川や水辺の様子について、においやゴミの量など6つの項目を調べ、それらの状態を評価し、報告していただくよう県民に広く呼び掛けた。

自分たちでできる調査方法で地域の水辺を調べ評価することで、身近な水環境を見つめ直すきっかけとなることを期待するもの。

平成24年度実績

団体数	のべ人数	調査河川数	延べ調査地点
94	5025	77	184



総合評価割合（平成24年度）

■食農教育の推進

幼稚園・保育園や小学校において、子どもたちが農業体験や調理体験を通じて食に関わる人や地元食材を身近に感じながら体系的に学習できるよう調理体験支援チームの派遣等の支援を実施。

○「幼児食農教育プログラム改訂版2013」の作成

- ・幼児期における農と食の体験を中心にして食農教育の指導書として平成18年度に作成した「幼児食農教育プログラム」を、新たに野菜の品目別栽培体験やキッズ・キッチン活動の手法を取り入れた調理体験などの指導事例や即活用できる教材を盛り込み改訂。

○食農教育の普及拡大

- ・食農教育の企画・提案を行うコーディネーターを設置し、幼稚園・保育園におけるキッズ・キッチン活動及び小学校における農業体験学習を実施。
- ・幼稚園・保育園におけるキッズ・キッチン活動／42施設42回
- ・小学校における農業体験学習／6校13回

■遊漁者増大対策事業

漁業協同組合等が行う釣り教室や漁業体験、植樹活動等の支援を通じて、遊漁者の底辺拡大を図り、また、長期的には減少を続ける漁業者の新規参入も図るため、平成24年度は、以下の行事に対して、支援を実施した。

- ・釣り教室（実施回数：11回 のべ参加者：822名）
- ・植樹活動等（実施回数：1階 参加者：158名）

■社会教育文化施設における企画展示

ふるさとへの誇りと愛情を醸成するために、岐阜県博物館、岐阜県美術館、岐阜県現代陶芸美術館、岐阜県高山陣屋管理事務所において、岐阜県ゆかりのテーマによる企画展示を実施した。

○岐阜県博物館

- 「飛騨・美濃の信仰と造形ー古代・中世の遺産ー」 (H24. 9. 21～10. 28)
- 「岐阜、染と織の匠たち 人間国宝三人展」 (H24. 9. 21～11. 4)
- 「ジオペディアぎふ ～岐阜の大地から地球史を探る～」 (H24. 7. 6～9. 2)

○岐阜県美術館

- 「岐阜県美術館開館30周年記念 岐阜県美術館の歴史 30年の歩み展」 (H24. 11. 2～12. 24)

○岐阜県現代陶芸美術館

「岐阜県ゆかりの人間国宝 ー美濃陶芸の系譜ー」 (H24. 8. 4～12. 24)

「MINO CERAMICS NOW 2012」 (H24. 9. 1～11. 11)

○岐阜県高山陣屋管理事務所

高山陣屋特別展「かつて飛騨の村々に 1000 挺余の鉄砲が～高山陣屋附鉄砲～」

(H24. 11. 3～H25. 1. 31)

■「岐阜～ふるさとを学ぶ日」(11月3日文化の日)

「岐阜～ふるさとを学ぶ日(11月3日文化の日)」に、県立4文化施設(岐阜県博物館、岐阜県美術館、岐阜県現代陶芸美術館、高山陣屋)を無料開放するとともに、特別展などイベント開催により県民の方々に文化・芸術に親しんでいただいた。また、県内62の博物館・資料館において、ふるさとについて学ぶことができる企画や展示を実施するとともに、入場料無料や割引などの実施に協賛いただいた。

■岐阜県文芸祭における「飛騨美濃じまん部門」の実施

岐阜県文芸祭に「飛騨美濃じまん部門」を設置し、ふるさと岐阜県の風景、生活、民俗、伝承、歴史上の人物など、岐阜県の自慢話や岐阜県の魅力を伝える作品を募集し、顕彰を行った。

- ・応募総数 316 点〈飛騨美濃じまん賞 10 点 奨励賞 36 点 佳作 50 点〉
- ・表彰式 平成 25 年 3 月 2 日(土)ふれあい福寿会館

■ひだ・みの創作オペラの開催

飛騨・美濃の特性を生かした誇りの持てるふるさと作りを推進するため、県内各地に伝わる自然や歴史・昔話を題材に、地元の出演者、スタッフ、ボランティア等が一体となり創作する県民参加型のオペラを開催した。

- ・日時：平成 24 年 9 月 8 日(土)、9 日(日)
- ・場所：岐阜市・ふれあい福寿会館(サラマンカホール)
- ・内容：ふるさとの昔話
一話 豆の木地蔵 二話 狐の嫁入り 三話 乳母がふところ

■美しいひだ・みの景観づくりの推進〈再掲〉

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援〈再掲〉

<参考資料>

・ 平成24年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況

■ 飛騨・美濃じまん地域会議

【岐阜・西濃圏域】

(飛騨・美濃じまんミーティング 岐阜・西濃会議)

第1回 日時 平成24年11月15日(木)

議題 ①岐阜の宝もの認定プロジェクトのこれまでの取組と今後の方向性について

②ブラッシュアップの取組報告および課題解決のための意見交換

【中濃圏域(郡上)・東濃圏域】

(飛騨・美濃じまんミーティング 東濃・中濃会議)

第1回 日時 平成24年10月25日(木)

議題 ①岐阜の宝もの認定プロジェクトのこれまでの取組と今後の方向性について

②ブラッシュアップの取組報告および課題解決のための意見交換

【中濃圏域・飛騨圏域・中山道エリア】

(飛騨・美濃じまんミーティング 中濃・飛騨・中山道会議)

第1回 日時 平成24年11月20日(火)

議題 ①岐阜の宝もの認定プロジェクトのこれまでの取組と今後の方向性について

②ブラッシュアップの取組報告および課題解決のための意見交換

・ みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例

平成19年7月9日公布
岐阜県条例第39号

みんなで作ろう観光王国飛騨・美濃条例

私たちは、古くから「飛騨の国、美濃の国」と呼ばれてきたこの岐阜県を愛してやみません。

この地は、春には桜色に包まれ、夏には深い緑におおわれ、秋には森は赤や黄色に染まり、平野は黄金色に輝き、冬には白く雪化粧をするなど、自然の生みだす五色の彩りに恵まれています。

この地には、日本人の心のふるさとの原風景がいたるところにあります。

この地は、日本の東西交流の中心地として、重要な歴史の舞台になってきました。地の利をいかした独自の文化が生まれ、商いも活発に行われてきました。

そして、太平洋側と日本海側を南北に結ぶ交通網が充実する今日、飛騨・美濃は、日本の東西南北の交流の中心として、明日の舞台になろうとしています。

おりしも、団塊の世代の人々の恋しや自らの再発見を求めたふるさと回帰が進んでいます。

さあ、飛騨・美濃にとって大交流時代の幕開けです。

日本のふるさとの良さをすべて持った飛騨・美濃が、県内外の人たちに恋しを与え、心にゆとりを与えるところとして輝くときです。

観光は、単に観光産業だけではなく、製造業、農林水産業など、幅広く地域経済へ効果をもたらす、すそ野の広いものであり、みんなで大切に育てるべきものです。こうした観光による交流を広げる取組は、明日のふるさとづくりにつながります。

飛騨・美濃には、森林、河川、温泉などの素晴らしい自然、歴史、文化、産業など、日本の貴重な財産として、世界に誇れるものが満ちあふれています。

私たちは、自信を持って、各地から多くの人たちにこの地へ観光に訪れていただくため、総力をあげて、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動を進めます。そして、飛騨・美濃を、誇りの持てるふるさとへと発展させていくため、観光王国飛騨・美濃を私たちみんなで作ります。

(めざすもの)

第一条 私たちは、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動（以下「じまん運動」といいます。）に取り組むことで、観光産業を基幹産業として発展させ、もって飛騨・美濃の特性をいかした誇りの持てるふるさとをつくります。

(合い言葉)

第二条 私たちは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう ふるさとのじまん」を合い言葉に、じまん運動にみんなで作ります。

(じまん運動を進めるしくみ)

- 第四条 県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨・美濃の観光を考える委員会（以下「委員会」といいます。）をつくります。
- 2 県は、飛騨・美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん県民会議（以下「県民会議」といいます。）をつくります。
- 3 県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨・美濃じまん地域会議（以下「地域会議」といいます。）をつくります。
- 4 県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

(知ってもらおうふるさとのじまん)

- 第五条 私たちは、ふるさとのじまんで県内外の人たちに知ってもらうため、あらゆる機会を利用して積極的に情報を発信します。
- 2 私たちは、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技により作りだされた地場産品などを積極的に活用するとともに販売します。

(見つけだそうふるさとのじまん)

- 第六条 私たちは、ふるさとの隠れたじまんを見つけたすため、ふるさどについて学びます。
- 2 私たちは、次の時代を担う子どもたちがふるさどに誇りを持つことができるよう、学校、地域、家庭などさまざまなところでふるさと教育を進めます。

(創りだそうふるさとのじまん)

- 第七条 私たちは、ふるさとのじまんで素敵なものに育てるとともに、新しいふるさとのじまんで創りだします。
- 2 私たちは、地場産業や地域産業が活発になるよう、ふるさとの特性をいかしたブランド力のある商品の開発に取り組みます。

(おもてなしの心)

- 第八条 私たちは、「いい旅 ふた旅 ぎふの旅」をキャッチフレーズに、飛騨・美濃に一人でも多くのお客様に何度でもお越しいただき、楽しんでいただくため、一人一人がおもてなしの心でお客様をお迎えます。

(美しい自然を守る観光)

- 第九条 私たちは、豊かで美しい自然を守るとともに、自然を観察したり体験しながらそのしくみを学び、大切に自然観光を積極的に進めます。

(ふるさとの文化にふれる観光)

- 第十条 私たちは、古いまちなみや素晴らしいふるさとの文化などを大切に、後世に伝えるとともに、お客様にこの文化にふれていただける観光を積極的に進めます。

(お客様にやさしいまちづくり)

第十四条 県は、市町村などと協力して、バリアフリーのやさしいまちづくりを進めるなど、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、お客様に楽しくすごしていただけるよう心がけます。

2 私たちは、観光施設のトイレをきれいにするなど、お客様に気持ちよく観光をしていただけるよう心がけます。

(飛騨・美濃じまんの日)

第十五条 県は、8月21日を飛騨・美濃じまんの日とします。

(飛騨・美濃じまん運動実施計画)

第十六条 県は、じまん運動を計画的に進めるため、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めます。

2 県は、飛騨・美濃じまん運動実施計画を定めるときや変更するとき、委員会と県民会議の意見をききます。

(飛騨・美濃じまん白書)

第十七条 県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

(その他)

第十八条 この条例に定めることのほか、必要なことについては、知事が定めます。

附 則

1 この条例は、平成十九年十月一日から施行します。

2 岐阜県観光審議会設置条例(昭和四十二年岐阜県条例第三十八号)は、廃止します。

平成25年度版 飛騨・美濃じまん白書

～平成24年度 飛騨・美濃じまん運動の進捗について～

岐阜県 観光交流推進局

平成25年12月